

天理図書館蔵 『庭訓私記』 翻刻（二）

小木曾 千代子

ここに翻刻するのは、当誌前号に掲載した「天理図書館蔵『庭訓私記』翻刻（一）」の続きである。表題から明らかな如く底本は天理大学附属天理図書館所蔵の貴重書『庭訓私記』である。本書についての紹介は簡単ながら前号に記した。なお、凡例は、前号に記したものに追加した点がある。

翻刻に当たり所蔵者より許可された翻刻番号は「天理大学附属天理図書館本翻刻第一三五六号」である。御許可をいただき改めて感謝し御礼を申し上げる。

## 凡例

- 一、翻刻は、原本に忠実であることを旨とし、意味の通じない箇所もそのままとした。誤字、脱字を括弧内に補った箇所もあるがこのような処理は最小限に抑えた。
- 一、字体は、一部を除き現行字体に改めた。仮名として用いられた「井」「子」は「卍」「ネ」と変換した。
- 一、合字は一字ずつ表記した。
- 一、踊り字は、漢字の場合は「々」、仮名の場合は「ゝ」と表記し、原本の「くく」はそのままとした。踊り字に濁点がついていない場合はそのままとした。文字を再度記入することを省略した縦線は「―」で示した。
- 一、原本の仮名は大小の使い分けが統一されていないものの原本通りとし、大小が明確でない場合は私に判断した。
- 一、補入文字は原本通り右に記し、補入符は で示した。
- 一、異本注記と推測される書き入れは、書き入れの位置に細字で示し、場合によっては当該文字の後に括弧でくくって示した。送り仮名の異本注記は、送り仮名の後に中黒を打ち注記の文字を「我子」の如く記した。
- 一、原本に句読点は存在しないが私に加えた。朱点は中黒で示した。
- 一、印字できない文字は で示し括弧内に推測文字を「カ」の如く示した。他の文字に置き換えた場合は、原本の文字を括弧内に説明した。また、稿者の推測による文字も「カ」あるいは「カ」の如く記した。

- 一、破損・汚損等による不明文字は「」で示し、字数不明の場合は「」で示し、その文字が推測可能な場合は括弧内に記した。
- 一、見せ消ち、上書きはその旨を括弧内に注記した。なお、「見せ消ち」と注記した箇所には「ヒヒ」と翻刻したのは、31才に「緇」とあることに依り判断した結果である。また、原本の「ヒ」が筆画の隙間に書かれている場合でもその断りは省略し、該当文字の右側に記した。
- 一、原本の「云云」は、本文に対して翻刻ほどの細字ではないものの印字の都合上この大きさとした。但し、斜めの字配りは原本通りであり、踊り字を用いていないのも原本通りである。
- 一、各状はその日付を以て見出しとしてあり、頭に朱の「」を付す。翻刻もこの見出しを目安とし、文中にある場合も改行して掲げた。また、朱合点を目安に改行した。よって改行は施注語彙ことではない。なお、朱合点は省略した。
- 一、原本に丁付はないものの私に「オ」、「ウ」の如く各面の始めに示した。よって一行目は合点による改行とは限らない。
- 一、必要に応じて文中に括弧を以て注記した。また、原本は宛字を多用していることから、翻刻上の誤植でないことを示すために一部「マヽ」「」と記入した。
- 一、括弧内の注記に「異本」とあるのは前号に紹介した東京大学史料編纂所蔵『庭訓往来抄』（謄写版）のことである。

(翻刻)

卯月五日文<sup>二</sup>

案内八案ノ字ニ付テ王範カ物語云、学文ニ他国へ三年ノ間出ル。女房ニ汝此家ニ居ト云へ八夜八鎧ヲ着テ冠ヲ着、打物ヲ帯而王範カ有様而社有ケリ。王範学文スル程ニ七年迄居リケリ。歸ントスル。百カ日間思案ト云ニ一字ヲ思惟シ本国ヘソ歸リケリ。家路ヲ見レハ草深シ。窓ヨリ内ヲ見レハ鎧冠帯タル者ヲ有。スハサレハコソ女房他男ヲマウケタリト思、既ニ害セントセシカ暫シ我意ニ案ヲ廻ス。先言ヲカウシテ後打ント思イ汝ハ何クノ者ソト問ハ此家ノ主也ト打物ノサヤハツシ名乗テ出ツ。声ヲ聞ハ我女房也。王範今社歸リタリト名乗レハ互ニ喜ヒ給フ。七年ノ

15才

内之学文ハ唯思安ノ二字ヲ徳ニ成ト喜ヒ申奉ル。其時ヨリ、ウ冠ノ下ニ女ヲ書テ安トハ読ケル。女房夜々冠着テ居タリシ故ニ思案ヲ取殺サリシ故也。

不審ハヲホツカナシト云意也。不明トモ読リ。興行者百廢一新之義也。

黎民トハ庶民也。万民也。黎ハ黒也。民ハ冠ヲ不着、頭黒髪之故ニ百姓ハ何モ隙ナク、カマ鍬ヲ肩ニ懸、鬧シケレハ也。

朝夕ノ煙トハ万民ノ家々ニ煙優々ト立、富貴ノ相ニ見ユレハ也。歌ニ云、高キ屋ニ登リテ見レハ煙ヲ立民ノ烟トハニキワヅニケリト読リ。百姓ハ公家ノ姓廿武家ノ姓八十合テ百姓ト云。然ニ公家武家ノ人達下テ庶人ト成間百姓トハ云也。又百姓ノ門ニ八人多クムラカリ耕作ノ業ノ体ニキク敷有ハ是繁昌ノ故也。

仁政トハ祭事吉ニ仍テ民モ王法モスナヲ也。

賞罰トハホメ落スト読リ。善ヲハ美メ悪キヲハ誠メ給ヘキ也。

嚴重八道ノ道タル事歟。

堪否八人間ハ一度八栄ヘ一度八衰ヘル習有。能々思ヲ云也。此心有八慈悲忍辱ノ心備ル也。

奸直八奸ヲ八姦キト読リ。

15ウ

曲ル意也。又破邪顕正義也。

所歸云ハ思寄意也。

寛宥トハ寛ハ心ノ広クヲトナシケナルヲ云也。宥ハ宥ムト読リ。過有ヲモ赦セト云也。

強トハコワシトモ、アラケナシトモ、強シ共アヤ悪ク共読リ。酒ヲシヅルニハ此強ラ書テシイ酒ト読リ。

侘際(マ)八人ノ過ヲモ強テ二求メス民ヲ中タムル事ナケレハ静謐ノ基也。

吹毛トハ相構テ過キ去リタル人ノ誤リハシス出スナト云意也。又鷹ハ其身煩イ有ハ毛ヲアラ、ケテ居、其時

毛ヲ吹テ其疵ヲ見ルニ必ス赤キ処有也。然ハ今百姓ノ上ニ有カト毛ヲ吹テ不求也ト云。又旧抄ニ云、虎モ虎ノ長キ

毛ヲ刃ニ懸テ吹テ見ルニ不切処有刀ノ疵トス。如此百姓ヲ至テ過ラ正ハ惡也ト云意也。

市町者月ニ六再立ヲ市ト云、日々ニ立ヲ町ト云也。天竺ニテハ檀毘尼園トテ善覺長者ト云人建テ諸ノ宝ヲ集メ

人ニ買セ富貴サセシ慈悲第一之人也。摩耶夫人ノ父釈尊ノ祖父。大唐ニハ周ノ国ノ傍ニ半唾ノ市ト云有。高風

ト云物立テ始テ高風酒ヲ造リ沽也。正直憲法ノ物ニ終ニ利潤ヲ不取。然処ニ細々夜々ニ

16才

人來テ酒ヲ買フ。彼カ姿ヲ見ニ非ス常ノ人ニ。顔ノ色ハ紅ノカシケテ、サスカウルワシク見ヘタリ。衣裳モ人ニ不似、顔ハ男ノ如而酒ヲ飲事限ナシ。高風問テ云ク汝ハ何クヨリ来ルソ、名ヲハ何ト云ソト問ヘハ吾ハ大海ノ頭リニ住ム情醸ト云物也。明日暮程ニ深陽ノ江ニ座セ、今一度本体ヲ顕シテ見申サント搔消様ニ失テケリ。高風明ル日暮程ニ深ノ江ニ望見レハ誰ソカレ時程ニ海中動揺シ電光ニ似ル光有。暫ク在テ一之化生者出現ス。似鬼神ニ惣体赤フ丹塗タルカ如シ。衣裳モ赤ク大瓶ヲ抱テ浪間ヨリ歩寄ヲ見ハ壺ヲ浜辺ニ居置、酒ヲ吞、舞遊ンテ後此瓶ヲ高風ニ取セ手持テ（以下脱字カ）猩々ハ海中ヘソ入ル。高風瓶ヲ取リ家ニ歸リ宵ニハ瓶ニ何モナカリシカ夜明テ見レハ酒ハ瓶ニ湛テ有ケリ。是ヲ売ニ尽ル事ナシ。吞人ハ齡ヲ延、病ヲ療ス。天ノ瀼（カ）（サンズイに勤）甕ト云酒是也。従是酒ハヤシト云事モ始リ、日本ニハ聖徳太子ノ大和国ニ輪ノ郷ニ而市ヲ立始給フ。皆人猛惡不善ニ依テ仏道ニ為ニ勸メ入ン多ノ財ヲ取出シ市ト号而正直憲法ニ精進潔祭ニ而立ケル

16ウ

間身ヲ清メ正直成者ニハ太子天眼ヲ以テ御覽有、宝ヲ与ヘ、心汚レタル者ニハ宝ソ不売給。諸人ニ向テ法ヲ説キ教化シ給フ故ニ仏道ニ入物多シ。又市場ニ夷スヲ祝ウ事太子ノ西ノ宮ノ明神ト御約束ニ八寔末世ノ万民酒ニ酔ナハ刃傷打擲シ猥リカワ敷可成故ニ市モ退転セン、無此義様ニ守リ給ヘト忝モ跡ヲ市中ニ夷三郎殿ト垂給。面ヲサラシ売買ヲ濟助玉フ。忝モ伊弉諾伊弉部（カ）ノ御子ニ第一天照太神第二ハソサノヲ第三ハ蛭子、天照太神ヨリハ第三ナレハ三郎殿ト申奉ル也。

廻舟則舟ノ出入ヲ着岸ノ津ト申ス也。又大舟トモ云也。

小路ト八十文字八方ヘ有<sub>レ</sub>云ト云ヘリ。

見世棚ハ先食物ヲ出<sub>ス</sub>店也。

贄<sub>ハ</sub>魚酒ノ類。

鍛冶ト書<sub>テ</sub>ハキタ<sub>ナ</sub>ヲ<sub>ナ</sub>スト<sub>ト</sub>読リ。太唐梁王ノ代ニ鍛冶有。干将嫫耶ト云夫婦也。彼<sub>カ</sub>子<sub>ヲ</sub>僉責ト云。或時梁王ノ后ノ夢ニ鉄ノ丸カシ天ヨリ下<sub>テ</sub>胎内ニ入<sub>ト</sub>御覽有<sub>テ</sub>終ニ鉄ノ丸カシ<sub>ヲ</sub>産給。博士ニ占<sub>セ</sub>ラレケレハ不苦、是以<sub>テ</sub>劔ヲ打給<sub>ヘ</sub>キト申。臚<sub>テ</sub>干将ニ勅定<sub>ヲ</sub>成<sub>シ</sub>ニ振ノ劔ヲ打奉<sub>ル</sub>。二ツ共ニ帝王ヘ可奉<sub>ル</sub>處ニ妻ノ莫耶<sub>カ</sub>云ク我<sub>カ</sub>胎内ノ17才

子<sub>ハ</sub>男也。彼<sub>ハ</sub>産<sub>ハ</sub>可取<sub>一</sub>振留<sub>メ</sub>給<sub>ヘ</sub>ト申<sub>ニ</sub>仍<sub>テ</sub>干将一ツノ劔ヲ謀計<sub>シ</sub>帝王ヘハ劔計奉<sub>ル</sub>。又或時帝御惱有<sub>間</sub>博士ヲ召、占<sub>セ</sub>ラル。博士申様、御惱<sub>ハ</sub>不思議ノ占也。此程造<sub>セ</sub>給<sub>フ</sub>劔、玉体ヲ恨奉<sub>ル</sub>事有。是ハマシヲ立<sub>テ</sub>禱時物<sub>ヲ</sub>云也、云<sub>セ</sub>給<sub>ヘ</sub>ト申奉<sub>ル</sub>。臚<sub>而</sub>禱給<sub>ヘ</sub>ハ劔ニ付<sub>テ</sub>申様<sub>ハ</sub>吾<sub>カ</sub>妻ノ劔、干将<sub>カ</sub>本<sub>ニ</sub>今<sub>一</sub>振有。是<sub>ヲ</sub>召寄<sub>我</sub>ト一<sub>処</sub>ニ置給<sub>ハ</sub>、弥々帝王ヲ可守護申<sub>ト</sub>テ、ヨリマシ<sub>ヲ</sub>拳<sub>リ</sub>ニケリ。勅使<sub>ヲ</sub>立<sub>玉</sub>ヘト劔<sub>ヲ</sub>不奉<sub>間</sub>干将ヲ擲取<sub>テ</sub>既<sub>ニ</sub>頸切<sub>給</sub>。一ノ劔<sub>ヲ</sub>莫耶取、或山<sub>ニ</sub>家<sub>ニ</sub>陰<sub>レ</sub>彼<sub>ハ</sub>劔<sub>ヲ</sub>八持、終<sub>ニ</sub>我<sub>子</sub>ノ僉責<sub>ニ</sub>讓<sub>リ</sub>ニケリ。母<sub>カ</sub>云ク汝世<sub>ニ</sub>有<sub>共</sub>能<sub>々</sub>身<sub>ヲ</sub>慎<sub>ラ</sub>ナセヨ。其<sub>故</sub>ハ<sub>ハ</sub>父<sub>カ</sub>此<sub>ニ</sub>劔<sub>ヲ</sub>汝<sub>ニ</sub>取<sub>セ</sub>ンカ<sub>為</sub>ニ一振陰<sub>シ</sub>置。其<sub>罪</sub>ニ依<sub>既</sub>ニ帝王ヨリ頸<sub>ヲ</sub>刎<sub>ラル</sub>。故<sub>ニ</sub>帝王<sub>ハ</sub>汝<sub>カ</sub>親<sub>ノ</sub>敵也<sub>ト</sub>云。僉責子細能<sub>々</sub>承<sub>ル</sub>。是<sub>ソ</sub>父<sub>ノ</sub>形見<sub>成</sub>ト云。然<sub>共</sub>我<sub>父</sub>母<sub>ノ</sub>誤<sub>テ</sub>勅定<sub>ニ</sub>背<sub>キ</sub>給<sub>ル</sub>ソ。第一<sub>ニ</sub>盗人<sub>ノ</sub>罪科<sub>重</sub>。第二<sub>ニ</sub>天子<sub>ヲ</sub>掠<sub>メ</sub>給<sub>フ</sub>事。第三<sub>ニ</sub>八王<sub>土</sub>ニ作<sub>レ</sub>生<sub>シ</sub>王<sub>勢</sub>ヲ背<sub>給</sub>フ事誤<sub>リ</sub>トテ臚<sub>テ</sub>参<sub>内</sub>シ我<sub>如</sub>ト此<sub>ニ</sub>奏<sub>聞</sub>シ明<sub>劔</sub>ヲ捧<sub>ル</sub>。君<sub>ノ</sub>叡慮<sub>ニ</sub>摘<sub>カ</sub>テ賢<sub>仁</sub>也ト被<sub>褒</sub>ケリ。余<sub>リ</sub>二君ノ

17ウ

御意ニ入ケレハ人猜ミテ申様ハ僉責社常ニ帝王ヲハ我父ノ敵トネラ申候ト訴ヘニケリ。君モサル事有ヘシト既ニ僉責ヲ討ルヘキ事治シ也。然ハ打手彼カ処ニ向ト聞テ僉責カ親類ニ司徒ト云者打手ニ向ウ也。意得ヨト云ケル。僉責カ身ハ悉鉄也。打事難叶。公卿大臣専義有ハ僉責申様ハ只今討ルヘキ事ハ是父母ノ罪故ソト思ヘハ更ニ天子ノ御科ニ非ス。則テ内裏ヘ参急キ首ヲ刎給ヘト庭上ニ畏リ申様、明劔ヲ叡慮ニ備ヘ給フ時ハ是ヨリ已後ハ汝カ住処心ニ可任トノ輪言如レ汗ノトハ云ヘトモ人讒訴ニヨリ今又勅勘ラ蒙ル。無曲ト云ヘトモ父ノ罪科故ト存候ヘハ弥々天子ニ科不座。我首ヲ疾々落シ給ヘト申セトモ公卿大臣恐レ寄不給。或大臣彼劔ヲ投打ニシ給フ。僉責中ニテヲツ取、切崎三寸喰切、奥齒ニシメテ己レト頸ヲカキ落シ死ニケリ。彼頸ヲ見ニ色不替、ニツトハカミニケリ。其後木ニ懸、サラセトモ色不変。鍋ヒヒ(見せ消ち)釜ヲ立テ油ヲ入テ頸ヲ煎事三七日目ニ色変シケルト申セハ帝王御幸有。釜ノ蓋ヲ取退ケ見処ニ頸煮奉リ

18才

帝王ノ御頸ニ件ノ銘劔ノ切崎ヲ吐懸ケレハ御頸則釜ノ内ヘ落ニケル。ニツノ頸喰相時ハ僉責力頸八下ニ成。是モ位ニヲサル、故也。爰ニ遠司徒思様、僉責ニ告シ事定テ陰レ不可有。後日ニ殺シヨリハトテ彼レ自ラ頸ヲ切一ツ釜ノ中ニ入。三ツノ頸追相タリシ姿ヲ巴文トモ云也。

鑄物師八天竺ノ毘舍利国ヨリ始ト云。善光寺ノ如来ヲ鑄奉ル説也。

工匠トハ手垂ノ上手也。

番匠ハ切刻ノ大方ヲスルヲ云也。



木ノ道八材木見知者。又

太鋸引トモ云也。

紺掻八奥州之信夫ト云処ヨリ始ル。シノフノ里ノ侍京ヘ登リ納無ヨリ年月ヲ送ル。古郷ノ妻男ヲ恋テ泣ク。涙次第ニ疑（凝カ）而紅ニ成テコホレケリ。白キ裕モ染摺繪ノ如ク成ヲ見テ人移シ摺ト云事ニ成テ人多ク着テンケリ。其後都迄モ上レ八信夫ノ摺ト云習シケル。道ノクノ信夫文字摺誰故ト云歌是也。

染殿八絹布ノ類ヲ色々染ルヲ云也。

綾織八惣而衣裳ニ紋ヲ織事、綾織態ト申也。帝王御衣ニ紋ヲアル事正月ヨリ一月ニ三ッ宛十日ニ一ッ宛メス也。

正月一日

18ウ

ヨリ七日迄召ル、御衣ヲ八子ノ日ノ衣トテ小松ヲ織ル。又后ノ御衣八月ニ一ッ宛都合十二重也。又一重ト云ハ五月五日ニ菖蒲ヲ織タル御衣一ッ重參レ八十二月ノト菖蒲ノトヲ十二重ト八申。是ヲ以君カ御ケシノ衣ヤ着ツラント古歌ニ有。御ケシト八卅六ノ衣ノ事、伊勢物語ニ有也。

蚕養八抑蚕養ナカリシ時寒国成ハ昔ハ寒ニツメラレ、コヰエ死シケル間雪中ニハ土ヲ掘テ穴ノ如ク而寒ヲ凌キケリ。穴ナ賢ク掘レハ是ヨリ穴賢ト文ノ奥ナトニ書也。日本ノ蚕養八欽明天皇ト申奉ル彼御宇ヨリ始ト云。昔北天竺ノ中ニ旧仲国有。其王ヲ八霖夷王ト申セシ。后ヲ八光契夫人ト申。息女一人御座ス。金色皇ノ后ト申キ。此御母光契夫人御逝去ナラセ給フ故ニ又大王后ヲ八迎ヘ給イケル。継母ノ御事ナレハ邪見人ニ勝レ給フ。或時其国ノ片原ニ師子死山ト云山有。住物トテハ獅子ト云物多シ。此山ヘ金色皇ノ后ヲ父ノ王ニ陰シテ追返給フ。

然共国王ノ姫君ナレハ却テ彼師子共食与ハ養シ奉リ終ニ古京ヘ師子

19才

共力送奉ル。是ハ不思議也ト公卿達喜給ニ又或時父ノ王ニ陰シ姫君ヲ鷹ノ多キ山ヘ追放シ給。風雨雪霜ニ犯レ年月ヲ送ラル。又鷹トモ番共仕リ又或時多ク人ヲ帝王鷹取ニソ遣サル。此人々姫宮ヲ奉見、則御供申古京ヘソ歸リ給ヘリ。其後又海眼山ト云遠島ヘソ流シケル。或時釣ノ小舟風ニ放サレ彼島ヘソ寄ニケル。則君姫ヲ乘申本国ヘソ歸シ給ヘル。又或時大王為御遊山ノ他国ヘ御出有ケレハ其留守ニ繼母六位ト云者ヲ召寄セ小庭ニ七尺ノ穴ヲ掘リ姫君ヲ埋ミ玉フ也。繼母今ハカウ也ト思召ケリ。切十日計而父ノ大王還御。姫君ヲ御尋有ケレトモ人々ヲ不知由ヲ申ケル間不思議ニ思食ス二百日計ニ御成ト時余ノ悲ミニ花園山ヲ御詠有ケル処ニ小庭ノ地ヨリ光リ指テ有間博士ニ占セ給ヘハ此地ノ下ニ人ノ体有ト申。俄ニ掘セ給ヘハ金色皇ノ后爰ニ座ストソ申奉ル。繼母ノ支態無情ト仰有。從今ハ何ナル国里ヘモ追捨ハヤト思食。臣家ニ仰付ラレ桑ノ木ヲ以テウツヲ舟ヲ作り姫君ヲ入奉リ水中ニ浮ヘ仰ニ云ク汝ハ只人ニ非レハ

19ウ

何成仏法流布ノ国ニ流レ寄テ似相ノ衆生ヲ助ケ給ヘト舟押出シ給イケリ。大王モ還御不座、合浦ト云浦ニ桑ノ木ノ三繁テタル処ニ桑原ノ院トテ浅間敷庵ヲ作り陰居シ御座。故ニ是ヨリ世捨ヲハ桑原院ナト、書クハ此故也。然者舟ハ蒼波万里ヲ凌キ日本常陸ノ国ト申ニ流レ寄給。或時釣ノ小舟ニ浦ノ大夫乗出見レハ浮木一ツ寄ニケリ。打破見レハ玉毛蛭（螢カ）キタル姫君御座。浦ノ大夫力云ク我ニ子ナケレハ則養イ奉ルベシト申セハ此国仏法流布ノ国ナラハ兔ノ角モト申サレケリ。大夫力宿所ヘ入申奉ル仰。暫有テ姫君違例付給フ程大夫夫婦共ニ

悲ニ申セトモ不叶、終ニ死去シ給イヌ。夫婦ノ物共名残ヲ惜ミ清<sub>キ</sub>唐<sub>ラ</sub>櫃<sub>ヲ</sub>調ヘ死シタル人ヲ入奉<sub>リ</sub>ル<sub>ル</sub>ニ上書<sub>キ</sub>置ニケリ。或夜ノ夢ニ我ニ食<sub>ヲ</sub>与<sub>ヨ</sub>、此程ノ恩ヲ報スヘシト夢ニ見ユル間人物ヲ開見<sub>レ</sub>ハ形<sub>ハ</sub>水<sub>ト</sub>消<sub>テ</sub>臭<sub>キ</sub>事<sub>モ</sub>ナシ。五穀ノ類ヲ奉<sub>レ</sub>共食シ玉ワス。太夫案シケルハ此君ノ乘舟ヲ見<sub>レ</sub>ハ桑ノ木也ト桑<sub>ノ</sub>葉<sub>ヲ</sub>食<sub>シ</sub>給イヌ。太夫申様ハ其国振トテ懐ク食スヤト悦<sub>ヒ</sub>猶<sub>ヒ</sub>コソ奉<sub>リ</sub>ケル。次第<sub>ノ</sub>ニヒ<sub>ニ</sub>申<sub>ル</sub>ト也、後ハ動<sub>モ</sub>働<sub>モ</sub>

20才

セス、皆此虫共頭ヲ拳テ居タリケリ。是ハ我国ニテ師子死山ニ流シ苦<sub>ヲ</sub>今休ト夢ニ見ケリ。是ヲ蚕養ニ養ウニ初<sub>ノ</sub>留<sub>リ</sub>ト申也。二番目<sub>ノ</sub>留<sub>リ</sub>ヲ八鷹群山<sub>ノ</sub>苦<sub>ヲ</sub>休給ヘハタカメ留<sub>リ</sub>ト云<sub>リ</sub>。其時ハサムカル気色也。三番<sub>ノ</sub>留<sub>リ</sub>ヲ八舟留<sub>リ</sub>ト云、後ヲ八庭<sub>ノ</sub>宿<sub>リ</sub>ト申也。此四<sub>ノ</sub>宿<sub>ハ</sub>獅子死山鷹群山海眼山其後ニ八庭ニ被<sub>レ</sub>埋<sub>給</sub>イシヲ煩<sub>ミ</sub>給<sub>フ</sub>。此四<sub>宿</sub>後繭<sub>ノ</sub>系<sub>ニ</sub>毎<sub>ノ</sub>ヲ作也。空舟<sub>ニ</sub>乘<sub>給</sub>シ事ヲ学<sub>ヒ</sub>ケル。其比筑波山ニ仙人アリ。(景に凡、古活字本「ホウ」と傍訓)道仙人ト云ヘリ。彼人此繭<sub>ノ</sub>系<sub>ニ</sub>毎<sub>ノ</sub>ヲ練<sub>リ</sub>綿<sub>ト</sub>云物ニナシ人ノ寒<sub>ヲ</sub>防<sub>キ</sub>給<sub>フ</sub>。綿糸モ是ヨリ始<sub>レ</sub>リ。又蚕養<sub>ノ</sub>神<sub>ト</sub>成<sub>給</sub>フ時ハ本地勢至菩薩<sub>ノ</sub>反化也。又綿<sub>ニ</sub>練<sub>シ</sub>人<sub>ノ</sub>釈迦<sub>ノ</sub>化身也。已上カ<sub>ニ</sub>申<sub>コ</sub>ノ由来也。

伯樂ト云事、室町ヨリ始也。伯樂<sub>ハ</sub>後馬<sub>ノ</sub>生薬教<sub>テ</sub>帰<sub>ル</sub>。大唐ニテハ保恩神ト云神ニテ御座也。牧士<sub>ハ</sub>馬<sub>ノ</sub>牧奉行スル者也。又八草苧トモ云也。

炭焼ヨリ

蒔画師等マテハ職人也。

紙漉トハ天竺ニテハ摩訶波委ト云人始ル也。是ハ国王也。大唐ニハ毘波多

20ウ

云人始也。日本二八記私ト云人始也。其前八木札ニ書テアミツラネタリ。去社文ヲ御札ト云也。  
廻舟人ハアキナイスル者也。

水主ハ舟子頭ヲ

梶取ハ船艫ト共也。

漁客ハ他所ノ釣人雨風ニ被レ障隣ノ浦ヘ来ヲ云也。

朱砂ハ朱焼也。

烏帽子商人ハ烏ウヒツ煮ヒツ(瑟カ)ト云人大唐ヨリ来テカフリ行クヲ見テ人作り始リ。此者名ヲ烏丸ト云ヘ八夫

居ルル今ニ烏丸ト云也。

沽酒ハ酒売者也。

弓ハ天竺ニ多羅樹ト云木テ作り給フ故ニ御多羅枝ト云也。

矢ハ愛染明王ノ御持物、様々ノ子細有ト云。

猿樂ハ神代ヨリ有ト見タリ。中比迄ハ神樂ト云ヲ恐レ為ニ神ト云字ノ反ヲノケテ作り計ニテ申樂共書ト云。

一ツニ八深草ノ天皇ノ御宇ニ内裏ニ一人女房子ヲ産事四人。姿者人ニテツラハ猿ニ似テ利根限リナシ。色々ノ曲

ヲスルニ先管絃ヲスレハサテソレ、カクヲハ猿樂ト名付、此四人カ子孫ヲ觀世保昌金剛金春ト云テ今ノ

代モ内裏ニテ御能ヲ作ト云。一ニハ日吉山王ヨリ起レリ。其猿ハ万ノ真似ヲスルヲ社人見テ其ヲマネテヨリ

日本ノ

## 21才

猿樂始ル云。

田樂ハ叡山ノ下法師カ秋ノ田ナントヘ行テ猿ノ真似ヲシ刀ノ玉ヲ取ナントシテ後八神ノ前ニテ仕リ（ルヒト書キ）高足ニ乗テネル。又田島ノ祈禱スル故ニ田樂ト云也。狩人ト八狩場ニハ不行、内ニテ今夜ハ夜狩ノ折節也ト下地スル者也。

獅子舞ト八獅子ノ頭ヲ作リ繼テ算所ノ者舞也。

傀儡子トハテツシ。

琵琶法師ハ中比盲目シタル者入道而鼠色之衣ヲ着テ琵琶ヲ袋ニ入テ廻ル也。近代八公家ノ君達ノ盲目シ直垂ヲ着セテ平家ヲ面白ク語リ給フニ依テ内裏ヘ召シヒワヲ彈テ物語セシ。其時城ト云字ヲ用ル也。公家達ノ遊ニハ是ヲ崇敬シ座上ニ被置故ニ座頭ト成也。

梟御子ハ門ヲ廻リテ占ラ問、小鼓ヲ服ニ夾ンテ打懸ヲ着テ廻ル者也。

傾城ハ越ノ浅（踐カ）王ノ時西施ト云美女有。是カ一度咲ハ城傾キ百度咲ハ一國傾也。万人寵愛ニ思女房也。又物語云、越王ノ仰云、今度命ヲ延、再ヒ帰国スル報恩何ヲ以テ力送ルヘシ胡王ノ方ヘト仰有ハ范麗（マ、カ）申様八胡王ハ一段透人ニテ候間可然女房ヲ被レ遣八何寄可然ト申上ケリ。

## 21ウ

是尤也。然ニ何レヲト有ケレハ昭君ヲ御遣テ可然ト申。帝仰ニハ我ニ三千人ノ后ニ是八第一也ト惜ミ給ヘハ范蠡申様、然ハ三千人ヲ繪ニ写シ第一ニ悪ク候ワンヲナリトモ可被遣申セハ臚テ工師ヲメサレ被写。三千

人ノ后達ノ各ノ絵師ニ我姿吉様ニ書給ヘト色々ノ引手物ヲス。彼昭君独リ我姿吉、絵師ニ引手物シテ何カセント慢シテコソ居タリ。工師毛恋腹ヲ立テ昭君姿ヲ一浅間敷書ニケリ。時ニ范蠡力云ク此絵ノ内ニ悪カランヲ可遣トノ論言ナレハ是昭君ノ絵ニ三千人第一ニ悪ク候間今ハ胡国ヘ可被遣申。王不ニ斜歎給フ。范蠡申セシハ是ハ心安ク思食給ヘ。定テ胡王昭君ニ打ホレ給ワ、王法モ政法モ破壊而国土乱スヘシ。然者其時再ヒ胡国ニ打入、胡国ヲ安々ト切取ソウ吉謀ニテ候也ト申セハ越王夫尤也ト昭君ヲ胡国ヘ遣ル。胡国ノ臣下ニ吾司楚ト云者申ケルハ是ソ越ノ范蠡力態成者君早ク此女房ヲ返シ給ヘト申セトモ只ホレニホレテ終ニ不返給。国ミタン(レカ)ニ成ケレハ越王打入、胡国ヲ切り取り

22才

再ヒ昭君ニ逢給イケリ。是ヨリ而傾城トハ申也。

白拍子者後鳥羽ノ院ノ御宇ニ嶋ノ千歳若トテ二人ノ女舞始シ。最初ニハ立烏帽子ニ白キ水旱ヲ着シテ握卷ヲ差テ舞、後ハコトノシトテ烏帽子刀ヲ止テ水カシ計ニテ舞ケレハ白拍子ト申ス。神事ナトニ祭馬楽ヲ謡イ神事ヲ勤メ棟録ヲ取也。

遊女夜発者何モ遊ヒ者也。カツキナトシテ夜行而人ニ逢女房也。

医師八天竺ニ八耆波遍鵲、太唐ニ八勝光師、日本ニ八大典葉是也。

絵師八楊瀧観音ノ御態。

仏師八毘首羯摩ト云者。

摺トハ上ニ委細明シ畢ンヌ。

武芸ト云ハ弓書馬礼算等ニ達スル者也。

相撲八天竺ニテハ仏ノ因位ノ時太子ニテ在ス時提波ト色々ノ態ヲ成給フニ相撲ナト取給フニモ仏マケ給フ事ナシ。此故ニ經ニモ相撲ト説給フ也。

禅律ノ事

禅家八教外別伝不立文字ト立ル宗ノ義也。

律宗ハ戒律ヲ調ヘ五戒十戒或者百五十戒ヲモ持宗ノ義也。

聖道トハ何モ仏ノ内証ヲ吉智ヲ聖道ト

22ウ

奉申。

修驗行者ハ物ノ祈リ祭リ而奇特ヲ見スル者也。惣而山伏ヲ修驗道ト云也。

効驗ノ貴僧トハ行体堅固ニ而仏意ノ内証ヲ明ニ而才覚満足スル人ヲ云。弘法伝教ナトノ様成智者ヲ云歟。

上人者仏ノ事ニ吉達シ奇特有八院宣ヨリ勅号給フ上人ト云也。雲ノ上迄智シ食レハ云尔也。

紀典仙經ノ儒者トハ一切ノ文ヲ讀ニ紀典仙經ノ両点有。池ノ氷ノ東頭ハ風渡テ解ッナト、讀ハ紀典様ノテン也。

池ノ氷ノ東頭ス風渡テ解ケリト誦ハ仙經誦也。何モ理ハ一ツ也。

明法八人法ヲ伝ラ云也。

明行者法ヲ受ケ賢明ニ道ヲ行フ者也。

学士八其一家ノ事ヲ能ク智テ法事法会ニ達者成ヲ申。

引声ト八声ヲ引ヲツノ声ニテ読也。

短声ハ中曲ナトヲ云歟。

一念ハ一仏一經ヲ守テ修行スル僧也。

多念ハ万善万經ヲ不漏大願成就僧也。

検断所務ノ沙汰人ハ物之品ヲ能ク糺シ明テ所務ヲスル人也。

検断ハサヲヘタツト誦也。

真字ハ

正字、仮名ハイ(伊)口(呂)ハ(半)字、

梵字ハ天竺ニ字也。

漢字ハ太唐日本ニ用也。或抄ニ云、

23才

商伽羅天嫁鼻仲天、生三ツ子。読謂ク波羅摩、伽羅摩、蒼頡也。波羅摩ハ梵書ヲ作り天竺ニ用之。伽羅摩ハ

伽書ヲ作り胡国用之。則古文字也。蒼頡者漢字ヲ作ル。

宏才ハ不習不学事ヲ中ニ浮テ謂扱也。宏ハ広シト読也。

利口ハ別事ハ欠タレトモ物ニ云事計勝ル者也。

博覽ハ博士ノ占ノ上手ヲ云。

冠(カ)(瓦に王)給ハ歌連歌ナトヲ直而世ヲ渡ル者也。太唐ニ冠(カ)(瓦に王)鼻ト云者有。儒者也。是ハ



鼻<sup>ラ</sup>逆<sup>ニ</sup>付<sup>テ</sup>雨露<sup>カ</sup>入<sup>ト</sup>テ天<sup>ヘ</sup>祈<sup>リ</sup>日<sup>ヲ</sup>照<sup>シ</sup>給<sup>ヘ</sup>ト申。然<sup>ハ</sup>日照<sup>ル</sup>也。士民迷惑<sup>スル</sup>間此人<sup>ヲ</sup>殺<sup>ント</sup>云時或人云、彼一人<sup>ノ</sup>（<sup>リ</sup>）に上<sup>書</sup>き、祈<sup>ニ</sup>依<sup>テ</sup>天下<sup>ニ</sup>日照<sup>ル</sup>事不可有。日照<sup>ハ</sup>大智者也。助<sup>ヨ</sup>トテ既<sup>ニ</sup>助<sup>ケ</sup>ケリ。

仲人ト八人ノ売買ノ物<sup>ヲ</sup>サハキ、スワ<sup>ト</sup>云物<sup>ヲ</sup>取也。有屑族ト八不及注。

卯月十一日ノ文

拝見書<sup>ハ</sup>我主人<sup>ニ</sup>書。

芸<sup>才</sup>ハ才<sup>ノ</sup>覚<sup>計</sup>成<sup>ラ</sup>云。勸心四座<sup>カ</sup>是。客<sup>カ</sup>真<sup>似</sup>スルナト<sup>カ</sup>才也。能<sup>ク</sup>智<sup>テ</sup>生<sup>々</sup>世<sup>々</sup>ノ用<sup>ニ</sup>立<sup>事</sup>スル力<sup>能</sup>者也。七座八・一<sup>ニ</sup>紺<sup>ノ</sup>座・二<sup>ニ</sup>炭<sup>ノ</sup>座・三<sup>ニ</sup>米<sup>ノ</sup>座・四<sup>ニ</sup>檜<sup>ノ</sup>座・五<sup>ニ</sup>唐人<sup>ノ</sup>座・六<sup>ニ</sup>雜<sup>ノ</sup>物<sup>ト</sup>テ魚<sup>塩</sup>ノ座・七<sup>ニ</sup>馬<sup>商</sup>ノ座、以上七座是也。

店<sup>ハ</sup>多<sup>分</sup>

23ウ

餅菓子ナトノ類出<sup>ス</sup>義也。

旅客<sup>ハ</sup>旅<sup>ノ</sup>客<sup>人</sup>也。

売買<sup>ハ</sup>百<sup>ノ</sup>売<sup>物</sup>、千<sup>ノ</sup>買<sup>物</sup>ヲ申也。

交易<sup>ハ</sup>京<sup>ノ</sup>物<sup>田</sup>舍<sup>ヘ</sup>下<sup>リ</sup>又登<sup>ル</sup>事無<sup>レ</sup>障<sup>リ</sup>申。合期<sup>ノ</sup>売<sup>買</sup>ノ輒<sup>ク</sup>叶<sup>義</sup>也。

定役<sup>ハ</sup>八<sup>ノ</sup>公<sup>方</sup>私<sup>知</sup>タル役也。

臨時<sup>ハ</sup>八<sup>ノ</sup>不<sup>慮</sup>ノ外<sup>ニ</sup>被<sup>当</sup>事。月<sup>迫</sup>ノ（<sup>上</sup>書<sup>キ</sup>）

上分<sup>ハ</sup>十分一<sup>ヲ</sup>上<sup>ル</sup>九分ニ<sup>ラ</sup>ハ我徳ニスル也。其十分一<sup>ヲ</sup>モ進出ル事。然トモ月迫ニハ必<sup>ス</sup>上ル事也。  
 年預<sup>ハ</sup>八国々ノ主<sup>レ</sup>カ倉一年中ノ錢ノ利倍<sup>ラ</sup>勘定<sup>シテ</sup>其<sup>レ</sup>余<sup>ヲ</sup>  
 節季<sup>ニ</sup>進スル<sup>ヲ</sup>云也。

遁避<sup>ハ</sup>不可遁也。

宰符<sup>ハ</sup>筑紫ノ太宰符事也。

室兵庫<sup>ハ</sup>舟<sup>ニ</sup>能々乘<sup>リ</sup>舟ノ道ヲ智者也。

刀祢<sup>ハ</sup>八河舟<sup>ニ</sup>上手ノ人<sup>ヲ</sup>乘、取拵スル者也。

馬借<sup>ハ</sup>駄賃取<sup>テ</sup>過<sup>ル</sup>人也。

車借<sup>モ</sup>車ノ遣手<sup>ヲ</sup>スル者也。

借上<sup>ハ</sup>八錢ヲ借<sup>シ</sup>十日ツ、ニ利<sup>ヲ</sup>加<sup>ヘ</sup>上<sup>ル</sup>ヲ申。

替錢<sup>ハ</sup>八田舎ヨリ替<sup>シ</sup>津ニテ取<sup>ラ</sup>云也。商人<sup>モ</sup>旅人<sup>モ</sup>着<sup>キ</sup>付<sup>ル</sup>ル宿有<sup>テ</sup>付<sup>ラ</sup>云也。

升<sup>（舛）</sup>戴<sup>ハ</sup>升<sup>（舛）</sup>目ノ物<sup>ハ</sup>少<sup>モ</sup>不違渡<sup>ラ</sup>申。

大舎人<sup>ノ</sup>綾<sup>ハ</sup>昔<sup>ハ</sup>舎人殿ノ居<sup>ル</sup>処也。今<sup>ハ</sup>所ノ名也。

大津ノ練貫、是<sup>ハ</sup>山城ノ名物也。

六条ノ染物<sup>ニ</sup>付<sup>テ</sup>北ノ物ト云<sup>ニ</sup>織物也。板ノ物ノ古<sup>リ</sup>タル<sup>ヲ</sup>張<sup>テ</sup>国裏<sup>ヲ</sup>

24才

付<sup>テ</sup>綿<sup>ヲ</sup>多<sup>ク</sup>ウ<sup>テ</sup>夜着ニスル<sup>ヲ</sup>云。又御寒ナト、申故<sup>ハ</sup>裏<sup>ニ</sup>越後<sup>ヲ</sup>スル<sup>ニ</sup>依<sup>テ</sup>云也。皆公家ヨリ出<sup>ル</sup>詞也。

猪熊ヨリ

嵯峨土器迄八所ノ名也。

奈良刀ト八奈良ノ天蓋町ニ文殊四郎ト云鍛冶有。般若寺ノ文殊ノ劔ヲ打テ奇特有故也。殊ニ小刀ノ上手也。

高野剃刀ハ諸人癡心而高野ニテ髪ヲ剃リ則剃刀ヲ買故ニ云尔也。

大原薪トハ本ヨリ薪ノ出ル所也。

小野炭ハ丹波ノ小野細川ト云処ヨリ出ル也。又物語ニ云、内裏女房九州ノ太宰ノ少貳ト云人ノ所ニ居テ或時炭ヲ火箸ニテハサミクツル。少貳云、都人炭ヲ手ニテハクヘスヤト問シニ本歌ヲ以答ヘケル、何トシテ何ト焼

ラン河内ナル横山炭ノ白ク成ルラン。唯今ノ炭ハ黒ケレハ火箸ニテ社クヘ(ツヒト書き)ニケルラント覺致也。

小柴ノ黛、焼処成ハ云尔也。

城殿ノ扇トハ京ノ彼人居処成ハ云尔也。此人ハ大唐ニテ班穰(カ)預ト云女房ノ作リシ扇ヲ見テ日本ニ歸リ作リ弘メケリ。

仁和寺ノ眉作、眉掃者トモ云也。尼比丘尼共ノ態也。

姉ノ小路ノ針ハ聖徳太子ノ姉ニ裁田姫ト申奉ル

24ウ

(片脱カ) 輪人ニテ御座間太子ノ針スル様ヲ教ヘ給テ売給フ処ヲ申事也。

木芽漬トハ芽(牙)ハサ山柘ノ皮ヲ剥、煮染テ漬ルト社聞ヘケル。

醍醐ノ烏頭布ハカジメ也。

心太トハ海草也。皆京ニテ調<sup>□</sup>へ様吉レハ云也。

加賀絹<sup>モ</sup>余ノ国ヨリ能レハ云也。古<sup>ハ</sup>ハ加賀ノ河下ト云在所ヨリ君<sup>ハ</sup>御衣ノ絹參也。

精好ハ大口ノ用也。

上法者美濃ノ国芹河ト云処ヨリ内裏<sup>ハ</sup>布參也。幕ノ用也。

八丈ハ細美也。京ノ町<sup>ニ</sup>八丈ノ座越後ノ座トテ二座有也。

信濃布トハ雪ニテサラス間至<sup>テ</sup>白シ。

常陸細ハ紫ニ染<sup>ル</sup>。

奥紫トハ是也。上代八人ノ血ニテ染<sup>ル</sup>也。

上野綿ハ内裏<sup>ハ</sup>參<sup>レ</sup>ハ云尔也。

上総鞆ヨリ

伊勢切付迄八国々ノ名物也。

伊与簾ハ竹ノ細<sup>キ</sup>ニテアミ京<sup>ハ</sup>登<sup>リ</sup>座敷ナトニ懸<sup>テ</sup>其儘捨<sup>ル</sup>也。

円座ハ蘭ニテ結、縁ナトニ敷也。

梶原ハ播磨ニ式神御座<sup>ス</sup>。因位ノ時消息<sup>ヲ</sup>早朝ニ遊<sup>ス</sup>二俄<sup>ニ</sup>死<sup>シ</sup>給<sup>フ</sup>時薬師来<sup>テ</sup>米<sup>ヲ</sup>摺<sup>リ</sup>テ參<sup>セ</sup>ケレハ蘇<sup>リ</sup>給<sup>フ</sup>。是<sup>ニ</sup>

依<sup>テ</sup>今<sup>モ</sup>朝、物<sup>ヲ</sup>書<sup>ニ</sup>ハ米<sup>ヲ</sup>一粒ツム<sup>ト云</sup>也。又夫ヨリ紙<sup>ニ</sup>米ノ粉<sup>ヲ</sup>入、漉<sup>也云</sup>。

備前刀ハ長舟ト云在<sup>ル</sup>処<sup>ニ</sup>打也。

25才

出雲鍬者鍬ノ始処也。

甲斐駒ト八四ノ爪白キ故ニ云尔也。聖德太子ノ神通騷(騷カ)ト名付給ヲ。黒馬夫ヨリ而始ル也。

長門牛者東大寺ノ柱曳タル車牛。馬石田ノ莊ト云ヨリ出、額カウ玉挿サウトテ額ニ玉有牛也。巨細八大仏殿之縁起ニ有。

奥州ノ金ト八信ノ夫ノ莊ニ掘ル金也。

備中ノ鉄ト八細谷川ト云処ニフキ始也。

越後ノ塩引者塩引ニ数多有中ニ毛鮭ノ塩引八越後カ本也。

椎者若狭ノ轆轤谷ト云処ニ有。九州太宰符ノ粟、篠粟共云リ。歌ニ・筑紫人空事シケリ篠粟ノサヽニ八ナラテ柴ニ社ナレ。是八能因法師ノ歌也。

宇賀昆布ハ夷カ海ニ弁財天ノ御座ス処ニ有昆布成八宇賀昆布ト八云也。

松浦鱒、尋ノ常ネ大而美也。砂ニ埋テ後、時分ヲ以テ取出シテ売也。

豊饒トハフクラニカコムト読也。云心者フクラハ最中ノ義、カコムハ公方マ、如何カニ存スス也。

甲乙ノ人者上下ノ人也。

五月九日ノ文ニ

面謁トハ々至也。

積鬱ハ憤ヲ積ムト書ケリ。

草亭ハ茅屋也。

資具ハツカ斗道具也。

纏頭ハ土産ヨリ外ハナシト云意歟。又古ハ関東

25ウ

ナトニハ客人ニ成テ行ニハ遊女ヲツレテ行、主人ノ響ニスル。彼女房帰ル時衣裳ヲ取スル。遊女取テ頭ヲ  
マトイ帰ル間云尔也。

率尔者歌道ニハ打テ付ト云意也。

周章ト書ハアワツルト読也。又人死テ程経テ祝イ意ノ時人（見せ消ち）書ニハ此周章ヲ書テ吉ト云。

忙然ハアキレハテタルト誦也。

幔ハ豎布。

幕ハ神后宮（二字共左にも「ヒ」、見せ消ち）宮皇后ノ御時ヨリ始ル也。舟中ニテ雲霞ノ覆テ有ラ見テ仕立  
給フ也。横ニ五段ハ五大尊、上ハ降三世、下ハ不動ノ繩ノ三色成ハ天地人、又三身ト申。凡ソ手ヲ廿八付ハ廿

八部主、又廿八宿ヲ表スト云。物見十二有八十二月又十二神、串ノ八角成ハ八大荒神也。

高麗縁ノ豊者白縁也。公卿殿上人ノ敷給フ也。

差筵ハ二重ノ縁也。

屏風、

几帳ハ

御簾ニ添テ懸ル歟。又ノレント云義有。

御簾ト云ハ金物アリ。

簾ハ金物ナシ。縁通ノ面ニ懸ル。

引入ト申ハ公方ノ供々ヲ盛物也。

曳物タマノ太敷也。三升（舛）盛五升（舛）盛リニス。大名衆ノ分限ニ依テ大小有。

合子者

26才

七ッ入、九ッ入ノ御器。数多キ故ニ云尔也。

打銚子ハ仁王七十六代近衛院ノ御宇ニ酒伝童子ト云者有リ。是ヨリ始ル也。其故ハ京ヘ丹波ノ大江山ヨリ美人

ノ男来リ。始ハ人ヲ取事ヲ不知。後知間彼ヲ為ニ殺シ両方ニ口ヲ付ケ中ニ隔ヲ而一方ニ毒酒ヲ入レ彼童子ニ取ハヤシ

吞セ殺ハ、其後ハ一方ノ口ヲ常ハ囊ム也。

家人ハ被官、家来ノ仁ハ近付ノ衆也。

無骨ハ無骸人ハ敷レ座出テ必ス汁ヲコホシフタメキ渡ハ全体骨ノナキ物ニ似ル間ニ云尔也。

配膳ハ膳ヲ賦ルト読也。

勸盃者座敷奉行也。

料理ハ万ノ調菜ノ味ヲ付ル者也。

包丁ハ能ク切目ヲ知テ羊ナトヲ切者ヲ包丁カ（脱字カ）日本テモ是ヲ学テ包丁人ト云。

胡実ハ古キ物知ト訓スル也。

職者シマハ役者也。不可被棄捐ハ捨テ損フト読問意ハ  
唯偏ニ奉レ頼ミト云程ノ意也。

五月日文ニ

不審トハヲホツカナシト謂心。

玉章ハ或人カ仁対玉ト云宝ヲ持ツ。此玉ニ思フ事ヲ云含テ投ハヤル処ニ行テ其人ニ具ニ

語レハ夫ヨリ文ヲ玉章ト云也。

余鬱ハヨリユフルトモ読。憤リ也。

徘徊トハ

26ウ

立チヤスロウト云意也。

光臨ハ望ミ来ハ也。

奉察ハ思遣也。

能米ハ黒米ヲ云也。

味噌ハ百味ノ中ノ最頂也。是ヲ香ト云ハ源氏香尽ニ蝸ト云ハ香ノ名有。勝テ香イ深キ故ニ是ヲ片取リ公家殿上人味

噌ヲヒクラシト侍リケル。蝸ト此字反ヲ片取、ヨノツネノ女房ハ虫共申ス子細候也。

塩梅者酢クシワハユキ味イ多レハ云尔也。

蠟燭ハ太唐ニ蠟ト云虫有。彼虫ニトホシクツカ似ルトテ虫反ニ書ト社申。



初献ト八海月熨斗

鮑梅干

削物、尤モ用ル故ニ云尔也。

魚躬八魚ヲ割ルル時内方ノ躬ヲ取置ラ云也。

王余魚八神宮皇后ニ韓退治ノ時舟中ニテ

鯛ノ鱠スヲ奉ル時半分食シテ一方ヲ海ニ放ツ。夫カ化シテ王余魚ト成間其後天下納レハ今モ祝言ニ用ルト云。

楚割者鱒ノ背ノ骨ヨリ割ルヲ云也。

熊掌ト八熊八手ニ吉味イ有ニ依テ云也。

狸ノ沢渡八足ニ味有。

猿ノ木取八腕ニ味有。

烏醬八鳥ヲタ、キテナラス也。

蟹味噌八鮎ノハラワタ。或河ニテ或女房綿ヲノハス。西行見テ

27才

綿売カト問ヘ八女房カ・狂歌ニ此河ヲ鮎取河ト知ナカラワタヲウルカト問ハヨロカヤト読ケリ。

烏賊、辛

螺、栄

螺、

蛤、

蜻交、

雑喉、

水魚等者谷河ニ有魚。白魚也云。

六月七日文ニ

鵜鷹八仁王十七代仁徳天皇ノ御宇ニ始テ渡ル。或時王御煩有。博士占セケレハ河内ノ国キンヤカタ野ト云  
 処ニ三足ノ雉有。是カ御煩ヲ成ト申ケレハ其時西来ト云者ヲ太唐ヘ渡シ鷹ヲ初テ我朝ニ仕イ給。則彼雉ヲ取レハ御  
 煩モ止ム間祈禱ニ成ト云ハ此故也。公家ノ呪（祝）ヒ本トソ申ケル。内裏ニ胡竹ト云女房有。是ヲ西来龍  
 愛シ鷹ノ由来ヲ語レハ夫ヨリ西来胡竹ノ二様有ト申。太唐ハ右ニ鷹居ル故ハ或洞ヨリ取出シ西来ニ渡ス時ナラ  
 ニサラニウル故ニ左ニ鷹ヲ居直シ渡ス間夫ヨリ日本ハ左ニ居ルト云。・本歌ニ云、ハシ鷹ノ身ヨリタ、コ  
 シアラソト又唐国人ニ右トコソキケ。ミヨリトハ手ニ居テ鷹ノ我身ニ寄方ノ羽房ヲ申歟。サテコソ歌ニモ・  
 タ、コシノ羽ソ白府成ケリト読ケ（ル脱カ）也。

27ウ

鵜ヲモ此時ヨリ仕シナリ。

逍遙八集メ集ル羽抄ヘヤトスル事也。

返逆八吉ニ背キ惡事ニタヨル者也。

籌策八馬ニ

鞭打と読。不成事ヲモ調法スルヲチウサクト云也。

狼藉ハ折リ敷ト読ム。狼ハ男、猥<sup>ハイ</sup>ハ女也。居処ノ草<sup>マ</sup>ノ花ヲモ折敷、嵐ナトスレハ狼藉ト云也。

蜂起ハ後漢ノ光武帝ノ宣ク我死ハ門ニ我頸ヲ懸置、敵来時者蜂ト成テ敵ヲサシ殺ント云ケル。サテコソ蜂起トハ書リ。

強竊ハ強ハ頭テ人ノ物ヲ押ヘ取、竊ハヒソカニ忍ンテ取ヲ云也。

横行ハ人ノカコイ防キタル処ヲモ破リ通ルヲ横道物ト云也。

財産ハ太唐ニハ土産ヲ云也。人ノ本<sup>ヘ</sup>ヤルニ子<sup>ヲ</sup>産ム時喜ニ行テ子ニモ婿ニモ田地太刀刀ヲ取スルヲ財産ト云テ宝ヲ遣也。

郭ハ七里有<sup>ラ</sup>云、

城ハ三里有<sup>ラ</sup>云也。

誅伐ハ伝テ切<sup>ラ</sup>云也。

宿直ハ昼ハ奉<sup>レ</sup>仕、日暮テ猶不帰、主君ヲ守護シ夜詰ラスル間宿直具足トテ持<sup>ラ</sup>ハ番具足トモ申也。

眉目、面目ノ事也。門葉ハ主人ノ紋<sup>ヲ</sup>着<sup>ル</sup>人々也。

粉骨ハ菩薩ハ肱<sup>ヲ</sup>切テ

28才

奉<sup>ル</sup>レ<sup>レ</sup>仏<sup>ニ</sup>、如此身骨ヲ不<sup>レ</sup>惜主君<sup>ヘ</sup>奉<sup>ル</sup>仕<sup>ヘ</sup>ヲ云也。

幌ハ十二様アル。文字<sup>モ</sup>書様替也。

樊会流八母八胎内ニ有時薄袋ヲカフリテ在ニ片取。

蘇武流者武羅ト書、武士ノウス物ト云心也。

張良流八三色ノ中ニ赤白カ本也。日本八応神天王ヨリ始ル。赤白合成ノ色八神宮王后ヨリ始ル也。両部不

ニスル意。樊会流八女房八臆病ノ心有共肝ニケナケヲ持也。依之母ノ薄衣於ホ口ニスルト云。

旗八軍ノ駿也。

内戚八父方ノ物共。

外戚八母方ノ者共。

一揆ハ一ツレト云心歟。

朝恩ハ心地觀經ニ云、世ニ四恩有。第一ニ天地恩・二ニ国王ノ恩・三ニ父母ノ恩・四ニ水火ノ恩。是ハ皆朝恩

也。又先御門ヨリ恩賞給事也。

許容ハセツカンセラレシ時物被レ免義也。

六月十一日文ニ

進発八陳立也。

綸旨ハ帝ノ被仰出事、

院宣ハ王ノ位ヲスメリ院ニ御座時云也。

令旨、官符宣ハ親王ノ、或ハ門跡衆御平定有テ書給フ云。

指南ハ黄帝ノ御代ニタクロク山ノ蚩友ト云者退治シテ歸リ有時海上ニ霧防リ東西ヲ不知間其時人形ヲ作リ指ニ

28ウ

鉄ヲ作り付ケ車ヲアヤツリ乗レハ何モ指ヲ八南ノ磁石山ノ方ヘネテ廻セ八東西南北ヲ知故指南ト云始ル也。人形ヲ八舟ノヘサキニ立置ト云。

大将トハ公方也。

副將軍ハ上相殿也。又一義ハ大将打死スレハ

副將軍大将ニ成ト云。

執事ハ管領ノ内和當長尾殿千葉ノ家ナト也。

施行者別当ノ類也。

規模ハウカ、イシルス也。先規ハ前ヲウカ、ウ心也。

後毘ハ後ノ鏡ノ為也。

肩鼻ハマクルヲ助ト読リ。

紫系威ハ大将ノ召ス御着長也。

卯花威ハ白系也。

黒系ヨリ黒革迄ハ如常。

大荒目ハ実ニ広クスル。

招縄目ハサネ威ノ系ヲ縄目ニスル也。

竜頭ハ甲事。一刎、タノ字クヒハネト読問陳ナトニハ此羽ヲ書テ吉ト云。

手蓋八手前キヨリ甲ニ覆者也。

半首八甲ノ丸キヲ云也。

唾懸八胸ニ当ル物。

鎖袴八金ニテクサル也。

逆類八鬼類ノツラノ様ニ四方ニアツル也。

石打ノ征矢八鷹ノ尾羽ニ多ク名有。鈴付、大石打、小石打、切符、風切ナト、云テ数タ名有。故ニ今石打ノ征矢ト申。

尻籠八大竹ニテ其儘スル也。武家ニ用ル。公家ハ

29才

籠也。又云、尻籠八卷也ト云。

兵庫鎖ノ太刀ハツハナトクサリテ吉也。

染鍔ハ白キ者也。

螺鞍ハ青螺ヲ摺也。

料ノ鞍橋ハ張鞍ニスヘキ下地也。

大形八房也。麋ハ青イ鹿也。

水豹ハ何ハウソノ成リ上リト云。

泥障ハ泥ヲ障隔スル故ニ云尔也。

八木八米ノ事。袋八鞍ノ上ノ傍ニ置ヲ云也。

行器者雜賞ヲ入ル、物也。

証判ノ状ハ御感状ヲ云也。

後胤ハ末代ノ手続ノ種ト成事也。

龜鏡ハ昔太唐ニ照曰鏡ト云鏡有。是ハ裏ヨリ表ヘ見彫鏡也。其外、人ノ吉凶罪科ノ輕重迄モ見ユルカ、ミ、増鏡共申。此鏡竜宮海ヨリ龜力負テ上ル時ノ王位賢仁成故ト云。然者鏡ノ裏ニ龜ノ形ヲ鑄付也。鏡八百王ノ御面ヲ見備セハ官人万民モ正路ノ基也。サテ社・千秋ノ鶴ノ音ハ五岳ノ嶺ニ響ケハ万歳龜鏡巨海ノ底ヨリ浮。又鏡ヲ鑄始シ人ヲハ伊因ト云也。

以上十二通ノ之注畢

29ウ (白紙)

30才

庭訓往来私記下卷

七月五日ノ文ニ

乍恐ハ敬フ意也。

不慮ハ不心成外也。

微力ハ我力ノ及フ程也。

愚状ハ寸ノ無隙間

伝奏状ニ及ハス直札ヲ捧ルト也。

洩申ハ披露可令申也。

紅葉重ハ上ハ赤ク下ハ白シ。

柳裏トハ表ハ黄色ニテ裏ハ青黄成ラ云。

小隔子ハコウシノ如ク織タル小袖也。

単衣ハ精ノ絹ヲ膚付ニ着物也。

紅ノ袴ハ内裏ニ住人着ル。裏白ク表ハ練ヲ濃紅ニ染テメス。

精好ノ袈裟同事歟。

狂文ノ唐衣ハ浮文有テ唐物成間云尔也。

朽葉ハ豎ハ紅イ横ハ黄也。

袖ハ紫ノ常ヨリモコキニ薄ヲ縫也。薄ヲ袖ト本歌有。・東路ノハニフノ小屋ノ袖垣ツヽラノサネノヲノツカラ

カハ。薄ニテ葺タル屋ヲアコメ屋ト申。

浮文ハウケ織ノ事。

巻染ハクヽシノ事。

村紺ハ手染ノ絹ヲ云。



浅黄ノ小袖ハ水色ニ紋ヲ付ル也。

懸帯ハ女房衆ノ上着ノ上ニ七尺ノ帯ヲ肩ヨリ後ヘ打懸也。又ミコナトノ神樂ノ時

30ウ

色々ノ帯ヲ肩ヨリ懸ル也。

冠表ノ衣ハ黒將束也。祈リナト有時為其着也。狩衣ノ事、公家鷹狩ニメス間如何ニモ厚ク支度ス。冬ナレハ

コソ歌ニハシ鷹ノ身ヨリノ方ハ雪消テタ、サキノ羽ヤ白符成覽ト詠給也。鷹ノ右ノ身ヨリ左ノ只先ノ羽ト侍ルソ。又公家余所ヘ使ナトニ御出ノ時ハ色々ノ絵ヲ書付縫付タル単衣ヲ装束シテ行給ヘハ狩衣ト申歟。

直垂、大口モ公家ノ衣裳ト申也。

大帷ハ広ク太キ也。此方ニテハ同服ト申物ノ様成ト云。

大星ハ鹿ナトノ目有ウ(ヲカ)ケカリハニスル。夏モ秋モ何モ有。天竺ノ天羅国ニ波斯匿王ノ太子ヲ産、七

歳ノ時母云、我ハ黒鹿山ノ鹿ノ王ナリシカ人間ニタヨリ仏道ノ為ニ既ニ大王ニ令契ヲナシ奉リ此王子ヲ八星ニ

祈リ奉ル儲ケ。是迄成ト搔消様ニ失ニケル。此王子ノ左ノ足斑ヲ成事鹿ノ毛ヲ如レ見成故ニ斑足王ト名付申。此

御足ヲ為レ陰ニ始テ袴ト行滕ト云事御座キ也。

牛ノ胸懸ハ天性ノ詞ノ縁語ニ任テ物ノ類ヲ書出シ給。用ヲ云ハ、車牛ノ道具ト也。

31才

七月日ノ文ニ

用反古ヲ、余所ヨリ書状来ル時依レ無ニ白紙ニ臚テ状ノ裏ニ返事ヲ書ケハ云尔。タテフウノ状ナトニハ礼紙卷ト

申テ先一重ニ書テ奥ヨリ巻テ其上ヲ一枚ニテ巻、其上ヲ又一重ニテ書（巻カ）、上下ヲ折返ス。卷数ナトノ如シ。中ハ一重ニ書テ礼紙一枚、表囊又一枚也（上書き）。下ハ一枚ニ書テ上囊一枚也。今時小文支立トテ一枚ヲ三ツ折一ツ切サケ夫ヲ表囊ニスル、常ノ事也。此上囊ノ端切ノ紙ヲ以テ中ノ書状ヲ礼紙巻トテマヅテ其表裏ハ常ノ習也。意ハ主ノ礼紙ニソト御返事給ヘト云義歟ト云。是用反古ヨリ以来タ如ス此。

目録ハ物頭ヲ記シ立ルヲ云也。

単衣ハ如レ先。

魚竜ハ竜ヲ紋ニ織付ル、

白張裏ハウラ白キ御衣也。

長絹ハ御児ノメス上下。ス、シノ絹ヲスル。袖ノ端ニ紅ノ結リヲ入テ赤絹（見せ消ち）菊トチヲ付ク。表ノ衣也。

素絹ハ白キ絹ヲスル。昔ハ若輩ノ人ハ薄墨ニ染、老僧ハ白クスル。当代ハ一向打返シタル支立也。横被ハ是ヲ仏弟子ノ懸ルル故ハ外道為レ令レ殺レ仏ヲ懷ニ刀ヲサス。仏弟子其異ヲ為レ頭ノ右ノ肩ヲ拔キ仏

31ウ

奉ル礼シ。或時阿難、頭陀ニ出テ通給フヲ水汲女房右ノ肩ノ膚ヲ奉レ見、窮吉膚哉ト思入、抱付トテ子ヲ井ニ落シ入ル。是ヲ仏聞給テ横被ヲ調ヘ懸サセ給フ。

鈍色ハ灰色ヲ云也。又白キ練衣共云。

下ノ袴有。如意ハ橋梵波提ヨリ始也。此人ノ口ハ牛ニレカムニ似。爪モ牛ノ如クハレタリ。談儀説法ニ人

見咲間是ヲ為陰シ如意ヲ作り面ニ当テシタウツヲ（見せ消ち）八足ヲ為レ陰シ也。過去ニテ中ネノホヲチキ  
 リ捨給故ニ五百生ノ間牛ニ生シ今人形ニ生レトモ猶形惡ク如此ト云。  
 帽子ハ不レ及レ注。

直綴ハ惣而律僧衣ノ如シ。今ハ一ツニ縫合スル。

鼻高ハ黒染ニヌル。宿所ヨリ路ノ間薄縁ナト迄ハク也。

草鞋ハ錦ニテ上ラ張リ板敷ヲハク。

横笛ハ太唐晋ノ馬融ト云者此人池ノ辺ヲ通時竜一声ヲ吟而曇へ上ルヲ聞テ面白トテ竹ヲ彫テ似レハ云尔也。

和琴ハ昔シ弓ヲ六丁張テ絃ヲ引シタリ。是ハ昔事ナト無故ニカク成シ也。今和琴ト名付テ諸樂器ノ上ニ置也。日  
 本テ始ル故歟。

箏ノ琴ハ糸ヲ七筋懸クト云。歌ニ社、桐ヲシモ琴ニナスヘキ様シニハ鈴カノ河ニ

32才

引渡ス哉ト読。

琵琶ハ魏ノ武帝ヨリ始ル。

方磬ハ泗濱ノ石ニテ作ル也。磬ニカト有故ニ方トハ云也。又鯨ノヒレヲマネテ作ル共云。尺ハ八唐ノ玄宗ノ御  
 宇ニ始也。

征鼓ハ鱧ノ口ニ似ル者也。

三ノ鼓ハ三番目ニ打故ニ云尔也。三番目ハ必ス大鼓也。鼓ハ秦ノ穆王ノ時始ル也。

摺鼓ハ孝謙天王ヨリ始レリ。彼王ハ女王ニテ御座ス也。大集經ニ云、所有三千界男子諸煩惱合集為一人女人之業障ト云文ヲ見テ腹立シ給引破リ開ヲ巾捨給。其過ニヨリ開俄広ク成テ世間ニ相程ノ閉ナシ。勅使ヲ立國土ヲ尋ルニ爰ニ近江國弓削ト云在所ヲ勅使通給フニ田ノ草取入道笠ヲニツキタリ。勅使不審ニ思ヒ問ケレハ入道申様、我物長ク太ケレハ如此背ニ廻シアタマニ笠ヲ着セテケリト云。是モ過去ノ業因ニ依テ也。サレトモ愛染明王ノ法ヲ行故ニ内裏へ參、道鏡法師ト名乗、孝謙天王ニ渡リ祈リ禱ハ王ニ成ケル。彼孝謙道鏡ト相給フ時八天地モ動トワメキ給フ故ニ公家殿上人ノ細工ニ摺鼓ヲコシラヘ打タ、キ鳴テ彼事ヲ粉ヲワスト云。

上ノ琴ハ

32ウ

白雅作リ始ト云。長サ三尺六寸ニシ糸ハ五絃七絃懸有。不日ハ其日ノ内ノ事、生涯ハ折角シタル事也。又一期ノ事也。七月日内紀ト氏一字書ハ人ヲサケタル心也。

七月晦日文ニ

下着ハ洛中ヨリ田舎ヘ下ル事。

殆ト云ハ恨ム共怪ム共恥入ト云心也。

往日ト云ハ日比ト云心也。

洛陽ハ東京ヲ云、西京ヲハ長安城ト云。

快樂ハ意吉、樂ト云心也。

御引付ノ沙汰ハ先代ヨリ定ル沙汰事。

案堵八所領中絶、今札ヲ案堵スルト云。

遺跡相論八親ノ讓ル其跡ヲ並テ相論スル也。

越境違乱八自他ノ境ヲ乱スル事。

参訴八参リ訴詔申<sup>(マ)</sup>也。

侘<sup>(マ)</sup>際八所領ニ妨多シ、(以下脱字カ)其シ夕敷中ニ八田畠ヲ互ニカヘテ作レハ

士代ト云ト云。

草案八古、紙無程八先草葉ニ文ヲ書見故草案ト云。

引付問注処八何ノ奉行所沙汰処也。

上裁勘判八公事文ノ判形ヲ留<sup>メテ</sup>一々ニ上<sup>ヘ</sup>申上<sup>ル</sup>。又上ヨリ

御裁許ニ預ル事ヲ上裁ト云。

異見八公事ノ根本ヲ裁許スルヲ異見ト云。

義定八公事ヲ奉行人ヨリ

33才

相目算スルヲ云。

評定衆八惣奉行

探題

管領

闔閭

右筆

所司代、此衆一人モ欠テ評定不成ト也。

雜務流例八所務ニ多ノ品有。米錢綿漆布絹紙魚塩色々納所スルヲ云也。先代ヨリ、

恒例ヲ流例ト云。

傍例

律令八律八掟テ令モヲキテ也。少モ乱敷事不可有也。

(異本を参照すれば以下およそ九行分ほど脱文。次項の「政道」は、次状八月七日状の冒頭より五項目に当たる)

(八月七日ノ文：異本に依る)

政道八正道也。

玉銚ノ道トテ彼玉銚ト云者ヲ投ハ高キ低キ処モ口ニ成也。藪モ棘モ割ケ破リ路直ニ成如ク君ノ仰ヲ敬ヒ道ノ道タル

事ヲ玉銚ト云ト云。

緩急八人事ニ物ノ法度ヲユルムル事多レハ後尾籠緩急ニ成間常住只天ニ躡リ地ニ踏スル如クスヘキ也。洛ヒ(見せ消ち) 洛流八事闕ヌ様ニ物用意セヨ也。又物ヲ生ケテ助ル事ヲ計略セヨ也。(上記「洛流」は「庭訓往来」

の本文には存在せず、また、異本に依れば注の「事闕ヌ様ニ物用意セヨ也」は「活持」の注であり、

「物ヲ生ケテ助ル事ヲ計略セヨ也」は「計略」の注である) 諸帯

經廻ハ三官領ナトノ居処。又云、諸侍ノ出入スル事。

凶師ハ一切之事ヲ計イ申物也。

賄賂ハツクノ事。又云、タカラト讀、金錢ノ事ト云。

属佗ハ雜掌也。上衆ハ沙汰処ノ上衆、頭人ハ沙汰ノ頭ヲ取人也。

内奏ハ御密ニ縁ヲ取テ事ヲ奏スルヲ云也。

眞臆ハ力ヲ添ル人也。謀実ハ偽リ実ヲ相論スル

33ウ

事也。

甲子次第ハ下地ナトヲ売<sup>ウル</sup>ニ廿年計ハ用イ其後ハ不用也。凡甲子ヨリ次第シ見ト也。

闇闇トハ沙汰事ヲ云始ル人所<sup>ヘ</sup>諸評定闇闇ノ宿所<sup>ヘ</sup>打寄也。

終日ハ朝ヨリ夕部迄ノ事也。

勘判ハ謀板トテヌリタル板ニ人数ヲ書也。問注処ノ賦ハ何様ノ罪科ノ沙汰ソト触ル、也。

問状ハ罪科人ノトイ状也。下

召符ハ執筆ノ方ヨリ問状ヲ訴人ニ給テ急<sup>キ</sup>此問状ヲ論人ノ方<sup>ヘ</sup>遣シ彼論人ヲ召テ參ルヘシ。其時論人若及<sup>テ</sup>兩度ニ無音成ハ直ニ召符ヲ下サル也。

違背散状ハ奉書ヲ不用事。

三問答ハ論人訴人相對シテ三問答後ハ是非ヲ不云、理ニ任テ可有御裁許。

雌雄是非ハ女鳥男鳥也。事ヲ論<sup>ア</sup>ウ鳥也。不及注。沽券ハ売札也。

安堵ノ年記八十年共三年共地ヲウリ本錢返<sup>ニ</sup>地ヲ取。

放券ハ我奴婢<sup>ヲ</sup>人ニ売放<sup>ツ</sup>事。奴ハ女人、婢ハ男。取合<sup>テ</sup>雜人ト云。券契ハシタシク契<sup>リ</sup>所帶<sup>ヲ</sup>讓<sup>ヲ</sup>云。  
和与<sup>ハ</sup>和合<sup>ノ</sup>義也。

負累証文ハ公方私無陰文証也。

官領寄人トハ官領<sup>ニ</sup>隨<sup>ウ</sup>

34才

眞竊<sup>ノ</sup>者也。

差符方<sup>ノ</sup>

与奪ハ、ハヤ一人ハ罪過<sup>ニ</sup>所<sup>シテ</sup>眞竊人有、本ノ如ク御免許有<sup>ヲ</sup>与奪ト申。又我所<sup>ヘ</sup>差<sup>テ</sup>来<sup>ル</sup>財産ヲ近付<sup>ヘ</sup>分<sup>テ</sup>遣<sup>ヲ</sup>云共アリ。又人ノ相論スル人。

探題ハ管領ノ中ノ頭也。

放火ハ火<sup>ヲ</sup>人ノ家<sup>ニ</sup>付<sup>ル</sup>物也。

刃傷ハ人ヲ切タル者。但シ疵付タル。

打擲ハ人ヲ打タ<sup>ク</sup>事。

蹂躪ハ人ヲフミケル事也。サテ社フミニシルト書タリ。

勾引ハ人カト<sup>ト</sup>也。



路次狼藉ハ一切路ヲ塞ク者。

鬪諍喧嘩八市町ニテ、イサカウ事。

管領、執事八侍所ナリ。

検法（断カ）八人ノ罪過ヲ聞立、家中ヲ記ス人。犯人ヲ召籠テ先板ナトニ推テ問ヲ推問ト云。不謂時ハシコニ

乗テ水ヲクル、其後小蛇ヲ口チヨリ飲ル也。ニツニ

拷問八張付ニカケ後爪ヲ起シ錐ニテ脚ヲ擽也。三ツニ

拷訊八火頂トテ銅ノ鉢ヲ焼テ頭ニ覆ヘ八首焼碎也。可断罪ト云ハハタト切テ捨ラ云。

禁獄八禁籠ヲ八材木ニテ造ル。獄八土ノ穴ヲ堀テ押入ル也。

流張八憂所ヘ流ス也。

火印<sup>ツラ</sup>八頬ニ焼金ヲ当ル。

追放八罪人トテ髪ヲ剃（剃に刀。ニ文字が密着し一字の如し）又鼻ヲ割テ

34ウ

追放ツ事。是ハ罪ノ軽重ニ依テスヘキ也。太唐ニハ三ノ道有。滋穴道數穴道晴穴道トテ有。上罪ノ者ヲ八闇穴

道ヘ流スニ三七日間闇穴ヲ潜スル。中罪ノ者ヲ八藪穴道ヘ流ス。二七日ノ間ク、ル。荆棘計生テ毒虫多クシヤ

フル穴也。下ノ罪ノ者ヲ八滋穴道ニ流ス。一七日ノ間膝立成水ノ穴ヲ渡ニ少モ止処有少罪ノ謂也。日本モ其例

多キ也。

次ニ寺社訴詔八寄進ノ地有。社ニ免許ノ宮田有。訴ノ字ハ下ヨリ上ヘ申、詔ノ字ハ上ヨリ下ヘ告下サル事。寺

立<sup>タツ</sup>ル初八欽明天王ノ御代大和国ノ久米寺ヲ立、塔モ立。此真柱ニ大日経ヲ善無畏ニ藏納メ給フ。其子細八大師ノ縁起ニ聞也。王位ヨリ立寺ヲ勅願処ト云、公方様ヨリ立ラル、ヲ御祈願処ト云也。太唐ニ宮人ノ居所ヲ寺ト云。日本ニハ寺ト云ニ僧ノミ居也。社ハ紀州日前宮是ヨリ始也。夫権者神、実者神、崇廟ノ神、祚保ノ神トテ四義有。第一ニ権者ノ神ハ往古ノ如来、深位ノ大士ノ垂迹成ハ利生濟度ノ

35才

目出度御神也。第二実者ノ神ハ荒神ノ人トテ恨ヲナス人ヲ神ト祝イシ也。是ヲハ邪神ト云、崇ル物邪ニ成ト云。第三ヲ宗廟ノ神、伊弉諾ノ御孫也。是本地掲焉成神也。又伊勢春日ハ幡宗廟也。第四ニ祚保ノ神ハ他国ヨリ飛来リ給ヘル、稻荷祇園賀茂等ノ神也。熊野三所ハ権者ノ神。権現ト申ハ権者。北野日吉ハ実類神。越訴ハ古ヨリ申付タル人ヲ閣テ別人ニ付テ申義也。

覆勘ハ相論スル時道理乍持、敵ニ道理ヲ付ラレ後ニ色々申被テ我道理ニナスヲ覆勘ト云也。

庭中トハ我理有共貧成ハ可申次人ヲ不持、此故ニ子細ヲ符ヘ書テ申者、御雑色ニ心ヲ合テ公方様何方ヘモ御ナリノ時路次<sup>ツチ</sup>ト辻ナトニテ直ニ目安ヲ捧申上ル。目安ノ字書ニ紙一枚仮字ニ書ハ如何。縦ニモ書也。太唐ニ恵和<sup>下</sup>果尚御弟子三千人有。三密ノ奥義ヲハ弘法ヘ可讓御思食トモ余人ノ恨ミ多キ間仏法渡シ不給。或時恵果庭ヲ掃給フ。見之弘法走出テ御掃木ヲ

35ウ

給リ掃ハント申給ヘ共恵果渡不給間庭上ニ畏リ良久シテ恵果箒木ヲ投給テ汝ハ庭ヲハカン為カ塵ヲハカン為カトノ給ヘ八愚身カ庭ヲハカン為ト有レハ其時ノ御約束ノ詞ニテ内ヘ入給ヘハ弘法ハ庭ヲ掃イ我学文所ニ入、彼箒木ヲ

見給へ八光明赫々タル三ノ義軌有。夫今東寺ニ留ハ独古、高野ニ三古有。五古ハ御持物也。是ヨリ奥八日本記大日経ニ沙汰有シヤ。可秘。今俗抄成八筆ヲ投シ口ヲ閉ス。然者弘法モ庭中ニ望ヲ満足シ給へ八今モ大義大事ヲ八直奏庭中申上云。

粗ト八有増申心也。

八月十三日三文(朱合点は「文」の肩より掛けてあるものの今私に「將軍」より改行)將軍家御參詣ニハ

供奉ノ日記トテ先代当代相替ヲ又様ニ沙汰有ル。

關東ニ鶴岡八幡宮ナトヘモ御所之一代ニ一度ノ參詣ト承ル。八幡ノ本地一体三身御座。弓矢八幡八本地阿弥陀、正八幡八本地聖觀音、若宮八幡八本地十一面ト云。

八葉ノ車ハ上ニ屋形ヲ輪花形ニ敵ル也。

公卿一人ハ位ハ一位、仁車ニ乗テ後陳ヲ打給。四位ノ殿上人ハ騎馬ニテ前陳ヲ打給。

後車ニハ必ス只一人乗也。乗時ハ後ヨリ乘リ

36才

下ル、時ハ前ヨリ下ルト云。

將軍モ御參詣時八葉ノ車トテ葉形ハツ有屋形ノ屋形ノ(衍字)車ニメスト云。其時八京都ヨリ公卿殿上人關東ナトヘ八申下シ給也。又平家ニハ後車ヲ同車ト書ケリ。同事也。女房衆ノ車ニハ二三人モ乗給。

前駟八車ノ前ニ立テ路ヲ掃フ。地定トテ人ヲ掃也。

北面八内裏ノ南面ニハ公家達伺候シ給。北面ニハ五位ノ衆悉北ノ方ヲ警固シ給。是皆藤原氏ニ安藤遠藤内藤加藤伊藤後藤此衆ハ皆北面也。惣而安藤遠藤ト云ハ遠江河内加賀伊豆豊後、此国々ヨリ登テ御番ヲ勤ム。其国々ノトテ字ヲ取テ伊藤加藤ト名付ラレシ也。

綺羅ハ衣裳装束ノ照リカ、ヤクヲ云也。

陣頭ハ乱世ノ陳ニ非ス。内裏ニテ大臣公卿諸大夫各官位ニ依テ我座々ニ陳頭ニ烈座シ御座ヲ世上ニ是ヲ借テ俗家陣ト申事也。

供奉人ハ御近習ハ淨衣白直垂也。

又布衣ハ布ノ役トテ御劔ヲ錦ノ袋ニ入テ持ル。此人ハ随分ノ人、青直垂狩衣着テ馬上ニテ御車副ヘニ參ル也。

36ウ

如何ニモ勢イ有レト云意ヲ

景勢トハ申也。好粧ハヨキ粧イトヨム也。又ヲキロト諺。家文ハ我家文ヲ雑色小者等ノ衣装ニモ付ル也。其内テモ侍ハ不付。夫ハ我文ヲ用ル。色々狂文ヲ染テ着間筋籙ヲ持申役也。是等ハ中間ヨリ下モ也。御所ニハ中間ナシ。三管領ニハ中間雑色共ニ有。其下ニハ中間計。去程ニ狂文衆衫ノ袖ニ張木ヲ入、上ニ下ニ四ノ結ヲシメテ百人計モ石瓦ヲ立走ル。是ハ常ノ御參詣ニハナシ。御代一度時計。

牛飼等ハ公家門跡モ御伴申サレケリト也。

就中ヨリ

重代、

重宝迄ハ御警固ノ武士ノ事。今年天文六年正月廿五日ニ公方御参内ノ時モ六角殿御内新藤警固ニ上洛スル。北部ニ八堀今井武具ヲ調へ上ル。

新調美麗トハ今度ヲ晴ト出立ケリ。随兵ハ警固ノ左右ニ有武者也。

刀帯列ニ行ニトハニ並ニ行国大名ノ衆小太刀ヲ打付ノハイテ御伴セラル。是小番ノ衆ト申。則烏帽子直垂ニテ御走ノ衆是也。御帯刀ノ役人ハ御太刀

37才

持ノ役者也。

御調度懸トハ御矢ノ事。弓ヲハ御多羅枝ト申間御弓持ノ役人力。是ニ行ニ並テ行ト見タリ。

扈從、之ハサウリ引シロウ事也。ハタカリネル義歟。

御迎伶人ハ舞童ノ儀有。楽ヲ調へ綾錦ノ袖ヲ翻シ中途へ迎ニ参ル。御前ノ舞人ハ

打輕躑トハ腰鼓ミト読。禰宜神主ノ役ニハ幣ヲ捧テ音ヲ挙テ申。

巫ハ乙女ハミコ也。

裙帯ハ尾籠トテ公家ノ大口ノ後ニ引物也。

職掌ノ神楽ハ一類ノ物。黄色ノ直垂ヲ着テ立烏帽子ヲシテ祇候而調拔（拍カ）子ト云者ヲ摺也。

臨時ノ陪從ハ八幡ニ放生会ノ外ニ二月初卯ノ祭礼也。

將軍御参詣時モ結構申故ニ是モ陪從ト云也。

当座ノ神樂ハ其時ニ莅テ神樂致ス者也。

朝倉返ハ神歌ノ大事有。天照太神天ノ岩戸ニ引籠リ給イシ時諸神達ウタイ給ヘルヲ朝倉返ト申也。神主ハ乙女ノ秘事ト聞也。

賽ハ先規ヨリノ有様一ツモ違ヘ不申ト也。又返々ト云意ト云。

礼奠ハ精進潔濟スル意也。

37ウ

又文集ニ

葷腥（又は羶、羊に星）ト云コト有。葷ハ精進ノ臭キ物。腥（又は羶、羊に星）ハ魚ノ臭キ事。此ニツヲ断ルヲ礼奠ト云也。

如在ハ論語ニ「八祭ルニ神ヲ如レス在カレ神」云ヘリ。縦ハ主君ニ直ニ奉逢如クセヨト也。ヲ子恐レ敬ヲ如在ト云。世間ニ今比人ノ申ハ一向アワサル也。

神感ノ興、嚴重ノ態ハ神モ納受シ可有御感ト也。

掲焉ハアラタト云意也。

秃筆ハ兼テスル筆也。

九月十三日ノ文ニ（朱合点は「文」の肩より掛けてあるものの今私に「法談」より改行）

法談トテ経論ヲ讚談スル事。

唱導ハ法事ノ主頭。

侍者ハ噶食。髮ヲ剃（剃に刀の字形は34才20行に同じ）リ沙弥ヲ經テ後侍者ニ成。禪家ノ侍僧也。

聴叫ハ白袴着テ奏者ナトスル物也。又カイシヤウヲ打物也。

請客ハ客人会操ウ僧也。

頭首ハ衆僧ノ座頭スル人。

力者ハ狂文ノ衫ニテ白袴ニ結ヲ入テ働也。

駕輿トハコシノ事。丁ハ輿力キ。

精舎ハ寺、

一字ハ一ツ事、

金堂ハ根本堂ノ事也。

宝塔ハ多宝ノ塔ノ（ヒとある、見せ消ち）ヒ

（見せ消ち）。

儀軌ノ之塔也。

經藏ハ一切經ヲ納ル所也。

食堂ハ一寺ノ衆徒同会ノ時食所也。

僧坊ハ寺中ノ坊々也。

等身ハ旦那ト仏ノ

38才

夕ケ同シ成ヲ等身ト云。

白檀八白ニ（見せ消ちカ）磨キニシ、サイカ（上書き）シ敵ルヲ云。刀目ヲ顕ス也。

脇士八脇立、不動毘沙門等也。

摺写シハ摺写ス

経卷ノ事。経王ハ（法カ）花経。

九旬八夏九十日供花焼香スル事。夫尺尊靈鷲山ニ御座セシ時御母摩耶夫人ノ御為ニ忉利天へ登リ四月十四日

ヨリ諸大羅漢ヲ引具シアカラセ給イ摩耶経ヲ説給フ。是安居ノ御法ト申也。七月十六日ノ朝下界へ下リ給フ。

衆僧各開度（夏カ）シ立チ去ル。此一夏中ヲ一夏

持濟マトハ申也。

斗藪八頭陀ノ事。

頭陀八打チ咲ウト誦也。

接待八宿所ヲ定テ往来ノ僧衆ノ宿ヲサスル故ニ待テ救ウト書リ。

千僧供養八千人定テ供スル内ニ羅漢一人供セン為也。

非人施行八毎日ノ門乞食ニ物ヲ引事。

布施八範叔ト云者始タリ。

被物八承ル物ト書也。

絹布ノ類。

録物八銭ノ類。又灌頂ノ時児ノ金作ノ太刀ニ素絹ヲ添テ出シ給フ也。録物、捧物ヒ（見せ消ち）録ノ引出物也。



又云、児<sup>ラ</sup>幽<sup>ニ</sup>調<sup>ヘ</sup>綾羅錦繡衣裳部類ヲ導師<sup>ヘ</sup>引物。祿物者<sup>(マ、)</sup>

38ウ

衆僧ノ引物也。

啓白ハ口計ノ詞ヲ以テ也。

一磬<sup>ヲ</sup>鳴<sup>ハ</sup>上天下界之ニ宝<sup>尊</sup>諸天ヲ驚<sup>シ</sup>奉<sup>ラ</sup>ント也。

九月廿五日ノ文ニ

誓願ハ願<sup>イ</sup>誓也。

凡情ハ我等如<sup>キ</sup>ノ習<sup>ト</sup>云事。

手輿ハ塵取ナントノ類。

諷誦ハ旦那<sup>ノ</sup>方ヨリ書<sup>テ</sup>導師<sup>ヘ</sup>送<sup>ル</sup>。願文ハ

仏陀ノ事委細導<sup>(師<sup>脱カ</sup>)</sup>方ヨリ書、諷誦ニソ<sup>ヘ</sup>八直<sup>ニ</sup>法則ノ時読<sup>ニ</sup>三宝衆僧聞<sup>ニ</sup>驚<sup>ト</sup>云。

法花ハ講ハ講師西ノ登高座ニ法花ヲ講スレハ読師ハ東ノ登高座<sup>シ</sup>点<sup>(マ、)</sup>然ト而不云、物ノ手マネ計スル。是則尺

迦塔宝ノ二仏也。多宝<sup>ハ</sup>過去ノ如来ニテマシマスカ今尺迦如来ノ説法ノ証明人ト而向座<sup>シ</sup>給<sup>ヘ</sup>ト云意也。過去

七仏ノ説法ヲ手本<sup>ヲ</sup>一字<sup>モ</sup>不違由ト云歟。登高座ハキサハシノ在座ノ事。講師ハ式祭文ナト読入。読師ハ

経ヲ始ル人。注記豎者、豎義会<sup>ヲ</sup>行<sup>ヘ</sup>ハ講役<sup>ヲ</sup>成<sup>テ</sup>後<sup>ニ</sup>ナル也。注記豎者、官ノ名也。

証議探題、一人ノ官也。豎者ハ答者也。

探題ハ問者也。

精ノ読

精議者

39才

論議ノ法主明メ也。

唄ヨリ

祝願以下迄ハ如常。

伶人ハサ、メ人ト読リ。百廿帖ノ樂ヲ奏スル。舞童、兎四人シテ舞。是ヲ太平樂ト云。昔秦ノ国王高祖ト

申、幽ノ国王ヲハ高禹ト申奉ル。或時高祖ノ内裏ヘ高禹御出有。酒ヲ始、泰平樂ヲ舞イ禹王躡馬童ト云童

子ヲ召具セラレシ力是ヲ秘所ノ事ニテ候間人ヲノケ門ヲ閉テ三人三尺ノ劔皆拔持テ魔王降伏、ヘンハイト号

シテ樂ヲ吹ハヤセ舞ルハ併禹王祖王ヲ討シ謀コト也。門外ニ樊噲ト云物、樂ノ調子ヲ聞ハ急ノ樂ニ成テ死ノ位ノ樂

有。樊噲門外ニ聞テ帝王御命危シトテ門ヲ打破テ内ヘ参リ躡而大動鍊ト云劔ヲ拔テ友ニ舞ケレハ高禹ノ夕ハ力

リモ不叶也。其時ヨリ泰平樂八四人ニ成ケル。サレハ災難払ヘキニ八泰平樂四人ニテ舞ハ四方ノ夷ヲ劔ニテ

切意也ト云。

又外聞ト云詞モ其時ヨリ始ル。樊會門外ニ有事ヲ躡馬童知テ禹王ニ相詞ヲ申セハ外聞ニ人有、後ノ嘲可有、今ハ

舞ヲ止メ給ヘト云。

文撰ノ

39ウ

兵巻ニ具ニ有。

縁道ノ絹ハ庭義灌頂ノ時庭ノ路ノ通ニ筵ヲ敷、其上ニ布ヲ敷ヲ云也。

繪蓋ハ法印ノ道具。白蓋ニテ内道具（場カ）ニ入ル道具歟。

白払ハ禅家ニハ払子トテ白牛ノ尾ニテ作ル。

纏頭ハ五月九日ノ文ニ有。

周章モ上ノ如シ。

十月三日ノ文ニ（朱合点は「文」の肩より掛けてあるものの今私に「入院」より改行）

入院ノ新命ハ当住始テ東ヨリ寺へ入給へハ退院ノ西堂ノ前住ノ事。当住ノ来年中ノ味噌ナトヲ用意シ置テ西門ヨリ

退キ給。惣而ハ僧衆替リ持成故ニ（以下脱字カ）相看ノ近々ト寄テ申事。

看經ハソラニ密カニ読ヲ云也。

諷經ハ弔（吊）イ經也。

大（濟カ）ハ太キニ救ウト讀リ。

結夏仏世ハ十月ノ文ニ有間ナル是来年結夏以前ノ事ヲ云歟。又是力当座ノ口ニ任テ書給へハ文段首尾セス故力。

屈請ハ恐レ畏ルヲ申也。

点心ハムナヤスムト讀。又法事ニ氣ヲ尽ス間心ヲ慰ルト云義也。

堂頭、長老ノ事。夫ヲ和尚東堂西堂左右ヲ論フ人也。知事ハ一切寺ノ儘カ（才に盡、異本「燼」、古活字本

「マカナヒ」ヲス（ル脱カ）也。

都寺、監寺ハ所領ヲ知テサハク人也。

維那ハ堂ノ前ニテ勤ラ始ル（役カ）人。時ニ莅テノ俄事法会ニモ経ラ始ル人。声明ニ器用ノ仁也。

典座トハ

40才

味噌塩米酒ヲアテカウ役者也。

直歳ハ米ノ惣奉行。都官、都聞ハ僧ノ名字官ヲ付計ツ人也。

修造主ハ作事奉行。

堂主ハ施食靈供（ナトカ）ヲ供スル役者。

浄頭ハ東司ヲ清ムル人也。

頭首方ハ前堂後堂学文而字ノ義ヲ智也。

首座ハ一座ノ頭ヲ

書記ハ物書也。

蔵主ハ倉奉行。

知客ハ若客人有ハ奏者仕ル。浴主ハ風呂奉行。

焼香侍者ハ長老化行ノ時ハ焼香箱ヲ持役者。

書状ハ長老御前ニテ書状ヲ認ル役者。

請客八客人ノ時罷出、会釈イヲ申係也。

湯薬八先師御前ノ茶湯ナトスル役者。

衣鉢八長老ノ袈裟衣鉢袋ナト持物也。

耆旧八位ヲ經拳ル僧多キヲ云也。老僧之事也。

塔ヒ頭（見せ消ち）八七堂ノ外、部屋坊イクツモ有ラ（二字見せ消ち）造リ陰居ラ云也。

旦過ノ僧者江湖ノ僧共一宿スル所也。

山主、庵主八何モ役者。

沙弥八翻ヒ（見せ消ち）翻シテ勤息ト云。意ハ善ヲ勤メ惡ヲ息ム義也。

喝食八西天竺ヨリ童来テ出家ラ望ム。仏薄尺彼等カ（以下脱字カ）氣ヲ三年ノ間不レ剃（剃に刀の字形は37

ウ10行に同じ）レ髮ヲ仏餉ヲ令レ供。故ニ僧堂ニテ喝イ物ヲスル也。

40ウ

式刃摩耶尼ト、男ヲ八式刃摩耶ト云也。ヒタイ髪置タル事ハ衣キスヘキ為。衣ハ髪ヲ剃（剃に刀の字形

は上に同じ）テ着カ本義ヲ今額髪ヲ卒度先ヲ切カ剃意也。夫ヲキルヘキ為ニ髪ヲヒタイヘ垂ル也。

行者方ニハ

参頭八行者ノ頭ヲ。副参、同宿。望参ハ人同宿。又云、サン望参ハ張物洗濯ノ奉行ト云。

供頭キウ八調菜頭ヲ。

堂司八諸堂ヲ廻テ花香油ノ退転ヲ告ル人也。

庫子ハクリ坊主也。

炭頭ハ炭ノ奉行。是ヲ

興炭ト云ハ摺墨モ有ニ依テ云也。

兄部ハ調菜方ノ物ヲ随テ入ニ一ツ宛出納スル人也。

山守、薪奉行。

木守、門守、何モ役人也。

火鈴振ハ鈴ノ様成太キ物ヲ抱テ振也。七堂ヲ時ノ出キタル時分告廻ル者也。

八斎八行者程ノ者也。庭ナト掃者也。

檢校ハ・金剛峯寺ノ法頭ヲ申・叡山ニ八座主・東寺ニ八長吏ト申。書写ニ八院主・根来寺ニ八院主ト

申・三井寺ニ八長吏。学頭、別当ナント八例式ノ義。執当、

先達ハ山伏ノ司サスル也。

大勸進ハ善光寺ニ(別当カ)ト云共山ノ中堂ナトモ大勸進ト申。

阿闍梨、法橋モ司ノ官。

律師、僧都ナトハ

41才

一堂ノ名。

得業、已講類モ皆費ヲ入テ射官也。

奈良大衆<sup>ニ</sup>有。又云、

已講、堂達八最勝会法花会ノ論談過ツレハ隙明<sup>テ</sup>陰居ナトスル人ト云。去程ニ堂達八老僧ト申。專当ハ何事ヲモ走廻者。預ハ專堂（四文字見せ消ち）預ハ中方、山ニモ高野ニモ根来寺<sup>ニ</sup>モ有。匂当、都維那、山伏道<sup>ニ</sup>用ル名。又風呂奉行也。

寺主ハ鐘付者。

承仕、宮仕<sup>ヒ</sup>（見せ消ち）司等<sup>ハ</sup>庭ナト清ムル者也。

有識僧綱者一寺ト有処ニハ諸財ヲアツカウ人ト云。

相伴ハ客人ノ時罷出、食<sup>ヲ</sup>進ムル者也。

倍堂ハ飯米錢ヲ添ル僧達ノ事。

外僧堂ハ座禅ノ僧也。

徒僧ハ門跡<sup>ニ</sup>テ宮仕者也。駟使モ同宮仕スル者。定仕也。

同朋ハ力者也。

掛塔ノ僧トハ他寺ノ僧衆学文ノ為<sup>ニ</sup>来リ一度（夏<sup>カ</sup>）一会有<sup>ラ</sup>掛塔ト云也。

十月日文

大齋八大<sup>ニ</sup>營<sup>ム</sup>事。方丈ハ衆僧ノ頭ラ也。此位ノ人<sup>ハ</sup>常<sup>ニ</sup>綾紫<sup>ヲ</sup>着間（以下脱字カ）素羅ハ紋ナシ。

青番羅ハ青<sup>ク</sup>而ツカイノ赤<sup>キ</sup>文有。

三法砂<sup>（マ、）</sup>ハ綾ノ上<sup>ニ</sup>縫物ヲスルト云。

頭文紗八浮織ヲ云。又云、大文有ト云。

花番羅八

41ウ

赤色ノ口也。

黄草布八唐物ノ布也。又八島布共申ス。

上品ノ細布等八已上方丈西堂へ御布施。

素紗八白キ紗。(朱合点は「紗」の肩より掛けてあるもの今私に「梅花」より改行)

梅花は赤キ綾ト云。

襖単衫ノ絹、ス、シノ絹也。襖ハスワウトモ読也。

花縵(綾カ)八木綿ノ出処也。色有木綿。則袈裟囊ニナトニスル也。

素紗衣、袈裟、素紗八豎ハ赤ク横八白シト云。

帽子八廬山寺ノ惠音禪師ノ着出シ給フ也。昔大早スル事有シ。人ノ首ヲ照破ル程ニ有シ間惠音法師ニ課雨請ヲ

王位ヨリサセラレケレハ余リニ日強ク照テ人通希成間御門ヨリ法師ニ御衣ノ袖ヲ引チキリ頭ニカフラセ水ト

云字ヲ恭モ帝王御手ヲノへ遊シ給イテ目出度カリケル。其ヨリ帽子ヲ唐音ニモウスト謂也。モウスノ上ノヒタ、

水ノ形也。

柱杖ハカシヤウト云虫ノ中骨也。其虫ノ骨ヲ表ス也。

脚榻八腰懸ル者也。又并ス足ツタイト云リ。



布衫八同服ノ如クナル物。鉢盂巾八椀折敷ヲノコウ物。脚布ヨリ

肚脱迄八如常。

蒲団八座禅スル

42才

時敷物。花瓶ヨリ

蠟燭迄八文ノ如シ。

竹篋、教尺トテ竹ヲ削テ人ノ眠ヲ打物也。

曲景ハイス也。

法被、打敷、水引、何モ道莊嚴ノ道具。

点心ト云事、法会ノ時終日勤行ニ氣ヲ屈スル間心ヲ慰メ為ニ色々珍物ヲ備ル也。

水織ハ似レ蟾<sup>ヒル</sup>ニ間此蟾吉也。

温槽八尺迦山籠リメサレ出給<sup>テ</sup>時ニル粥<sup>ヲ</sup>ウンサウカイト云也。是八尼カ奉ルト云。

水蟾ハカイコヲマネタル物。或王精進スキメサレ万ノ魚鳥ヲマネル。砂糖ヨリ羊羹ニ至テ八作リ物也。

餛飩ヨリ温餅ニ至テ点心也。

菓子八何モ如常。

素(索<sup>カ</sup>)餅(麥に并)トテ麦ナワトテ素麵ノフト物也。又ネチト云物共云。

客料ト八人数ニハツレタル人也。内々ニ居也。

茶具八

建蓋八

胡蓋ト云処ヨリ出。

饒州八胡国ニ有。

兔足ハ盃掃フ物ト有。又釜ノ蓋置物トモ云リ。然共盃掃イカ吉歟。

辛辣ハ辛ミノ味イ過タル。

雪林菜ハ雪アヘト云菜ノ事。

山葵ノ寒汁（以下脱字力）

牛房ハ牛ノ物ニ似ル故ニ云尔也。

薦子ハマコモノ中ノ白キ処ヲ云也。是ヨリ

菱迄ハ如レ常。

42ウ

田烏子八田ニ有物。（朱合点は「物」の肩より懸けてあるものの今私に「請暇」より改行）

請暇ハ暇乞テ所用有ハ滞留スル僧也。

病暇ハ違例ノ者也。

寮暇ハリヤウニ隙入僧。留守ノ僧。

暫暇八寸ノ隙モナキ僧ノ事。

無差八無差別平等ノモテナシタルヘシト云意也。

十一月十二日ノ文ニ

心気ハ心ヲ尽ス病也。

腹痛ハ五藏ノ煩也。

更発ハ氣起ル義也。

藪薬師ハ難經素問一靈コ枉シ金龜一甲乙一也。此五経ヲ不知藪薬師ト云也。

和氣、丹波ハ薬師ノ二流ノ氏也。

典薬ハ公方ノ薬師。内裏ヘ参ル薬師ヲハ

薬殿ト申。

施薬院ハ先薬師ヲ始時京ノ七口ニ無縁ノ者ニ薬ヲ施テ已後、上品ノ薬師ニ成ト也。其故ハ病ノ色ヲ見習、脈ヲ取習、薬ノ加減ヲ仕習劫ノ行故也。此施薬院ハ聖武天王ヨリ始ル也。御后ノ光明皇后女ト申ハ薬ヲ無縁ノ病者千人ニテツカラコシラヘ薬リヲ与ヘ給フ事九百九十九人迄如此。今一人ノ時中ノ拙キ物ノヨシカ来テ薬給ヘトノ由ヲ申上ル。拙クハ思召共願成ハ是ヲモ洗イ薬リヲ付ケ給フニ此者光リ差テ東方阿闍

43才

如来ト成給イテ其光リ光明皇后ニ移リケレハ其ヨリ光明皇宮ト申也。施薬院ヲハヤクキエリヤウト讀也。拳達ハ知セヨト云意也。

針治ハ針ニテナヲス事。

術治ハマシナウ事。又新夕ニ祭ル事。

上気ハ風ノ心地ニテ氣上リ目舞ナトスル也。

荒痢ハ荒キ腹也。

赤痢ハ赤キ腹トモ云。

内痔ハ尻ノ煩也。

内癯ハ腹中ノ煩ニテ痢瘦スル也。

癰、疔ハ何モ腫物。(朱合点は「腫物」に懸けてあるものの今私に「瘡病」より改行)

瘡病ハヲコリ。

咳病、首ノ寒也。

疾齒、膜等ハ(以下脱字カ)癲狂ハクツチナリ。

癰病ハ身損シテ瘡出テ五体血ニ崩ル、也。崩テ後死也。

傷寒、傷風ハ腹ノ内ニテ寒熱ヲヤム也。

霜(虚カ)勞ハ脈迷テ是モ寒熱ヲ煩也。

擣籩者ツキフルウ事。

補菓ハヲキナウ薬也。

一濟ハ葉種廿種共五種共揃ヘ蘇香円ナトノ如ク合ルヲ云。

禁好物ハ禁ハ病者之食事撰フ事。好ハコノムト諺。病者ニ進テ吉食事。

合食禁八食ニ付テ敵薬多シ。慎メト云義。

秦八氏也。

十一月文

玉章八玉札ノ事。

43ウ

上ノ六月七日ノ文ニ其謂、委細書タリ。

敵旨八敵キムネノ詞也。

名医者本道ノ薬師ノ事。

権ノ侍医ノ辺八吉侍、薬師一道ノ事ヲ知人。内裏ニ本医一人有。其隙入ノ時ノ為ニ一人コシラヘタル人也。

拔群八五十里四方ニ勝タルヲ云也。

五木八・楮・桃・柳・桑・杉ヲ云也。又

槐アヲチ樽ヲモソユ。

八草八・蓬・ソクツスイカツラ・石菖・メハジキ・麻・車前草・カキトヲシ・

温泉等ハ石風呂ナトノ事歟。玄宗ノ楊貴妃ヲ寵愛有時貴妃二月中旬ニ瓜ヲ願イ物ニシ給フ時、玄宗皇帝温泉

宮ト云ヲ巧ミ石ヲ焼テ湯ヲ懸ケ置給ヘハ、アタリノ土アタ、カニ成間畠ニ瓜ヲ植ケレハ臚テ出キケリ。是ヲ貴妃ニ

奉ルト云。此意ヲ詩ニ作リ内園分チ得タリ温泉ノ水二月中旬ニ進ム瓜ヲ君。又同歌ニ云、絹更着ノ事ソナレル

ユノハタノ園ノ瓜ツル花咲テ後。

坊内過度八明<sup>ヌ</sup>暮<sup>ヌ</sup>家<sup>ラ</sup>去<sup>ル</sup>事ナク淫欲<sup>シ</sup>シヤウ成事歟。

酩酊<sup>ハ</sup>太唐江南<sup>ニ</sup>或虫、熟柿<sup>ノ</sup>様<sup>ニ</sup>而目鼻ナトナキ也。名<sup>ラ</sup>泥ト云也。人醉時<sup>ハ</sup>此虫<sup>ニ</sup>

44才

似<sup>ル</sup>故<sup>ニ</sup>云尔也。

睡眠昏沈ハ先昏寢、ヤウ<sup>ノ</sup>キ食事而躑<sup>レ</sup>而又ル事。万事ノ毒也。

形儀散動ハ荒<sup>ク</sup>働<sup>キ</sup>給<sup>フ</sup>事モ血乱<sup>レ</sup>而悪<sup>シ</sup>。

飽満ハ食<sup>ノ</sup>過<sup>ル</sup>事モ悪<sup>シ</sup>。所作<sup>ノ</sup>

辛苦トハ一日<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>事<sup>モ</sup>ナス事<sup>ラ</sup>一時<sup>ニ</sup>シ、日<sup>ヲ</sup>尽<sup>シ</sup>骨<sup>ヲ</sup>碎<sup>ク</sup>事、悪<sup>シ</sup>。

恋慕<sup>ノ</sup>辛苦ハ人<sup>ヲ</sup>恋<sup>ル</sup>事多<sup>ク</sup>ケレハ意<sup>ヲ</sup>尽<sup>レ</sup>而悪<sup>シ</sup>。

長途<sup>ノ</sup>窮屈トハ旅<sup>ニ</sup>出<sup>テ</sup>家地<sup>ノ</sup>事ヲ思<sup>ヒ</sup>帰<sup>テ</sup>菟タルヲ云。

閑居<sup>ノ</sup>朦氣ハ独<sup>リ</sup>居<sup>ノ</sup>内計<sup>日</sup>夜<sup>ヲ</sup>尽<sup>シ</sup>夜<sup>ヲ</sup>明<sup>ス</sup>事モ悪<sup>シ</sup>。

愁歎勞傷ハ余<sup>リ</sup>ニ悲<sup>ミ</sup>腹<sup>ヲ</sup>ワタライタマシムル事、悪<sup>シ</sup>。

闕乏<sup>ノ</sup>失食トハ食<sup>ニ</sup>ウエタル、又過タル事有<sup>ラ</sup>云也。

深更<sup>ノ</sup>夜食トハ夜更<sup>テ</sup>食事、体<sup>ニ</sup>悪<sup>シ</sup>。

五更トハ子丑寅卯<sup>ノ</sup>時ナト二葉<sup>ヲ</sup>多<sup>ク</sup>不可吞。

塩増<sup>ノ</sup>飲水ハ水<sup>ヒ</sup>（左にも「ヒ」、見せ消ち）塩<sup>ノ</sup>過タル物<sup>ヲ</sup>食<sup>シ</sup>水<sup>ヲ</sup>吞<sup>事</sup>也。

浅味<sup>ノ</sup>熱湯ハ塩<sup>モ</sup>ナキ水<sup>ク</sup>サキ物<sup>ヲ</sup>食<sup>シ</sup>湯<sup>ヲ</sup>吞<sup>事</sup>、毒也。十二月三日<sup>ヒヒヒヒヒ</sup>（左にも同様に「ヒヒヒヒヒ」）

文<sup>ヒ</sup>  
ニ

寒氣ノ薄衣ハ寒時薄ク物ヲ着又レハ病起ル也。

炎天ノ重服ハ綿入ナトヲ六月ニ着事、大ニ毒也。

十二月三日文<sup>ニ</sup>

御住国ハ国ヲ給テ公家ナトノ

44ウ

下国有義也。

烏兔ハ日ヲ烏ト云ハ昔堯ノ代ニ日九ツ並テ出ツ。羿<sup>ケイ</sup>ト云物ニ射サス之。則九ツノ烏ト成落也。是皆化生ノ物也。間

是ノ如シ。羿ト云者矢ヲ放ツニ何ク迄行テモ不留云事ナシ。又日ノ内ニ二三足ノ烏有ト云説有テ日ヲ烏ト云也。

月ヲ兔ト云事ハ昔菩薩ノ行ヲシ給フ時、烏蓄草木ニ至ル迄信仰申奉ル間或山中ニ御座時猿ハ菓ヲ奉ル。狐ハ何モ

魚ヲ奉ル。兔ハ無調法成間可奉物ナク草木ヲ集メ焼、其中へ入り身ヲ焼テ御供ニ備へ奉ル。其志ヲ帝尺天感シ

給イテ月ニ乗セテ天ニ頂キ廻ル故月ヲ兔ト申也。

国ノ土産ハ八ニカラト読。

旅籠振ハ旅ヨリ歸テ振舞ヲ申也。

在庁官人ハ国ヲ任シテ下ルニ其国ニ有政所ニ官人ヲツカヘルヲ云也。

庁ハ、クリヤト読。凡住国ハ四年也。政所吉ニ依テ百姓等君へ訴詔申セハ重テ任スルヲ重任トテ八年也。

其過ハ十二年也（見せ消ち）、持任ト云也。

符辺八国土ノ符中へ集ル故ニ云尔。今披官ニ參ル者モ有。着任ハ住シ付ク也。

45才

是ハ京ヨリ着下ル者也。

着符八国ニテ符中へ參リ披官ニ付キ官ヲ付ハ云尔也。

大奏トハヲ、イニ進ル心也。

饗膳ハ廻リニ二尺五寸高一尺八寸。又廻リニ菜ヲ盛也。ヨメ取ニハ生物ヲ菜ニスル也。是ヲハ不食、別ニ小

膳ヲ仕リスエ替ル也。

両様納法ハ上ノニツヲ云歟。則年貢納ル事ヲ云。

郡司ハ郷司承リ判官代等ニ沙汰申義也。

(十二月三日文：日付を欠く、異本に依る)

御消息ハ昔太唐ニ王御座シキ。文ヲ遊ハシケルニ筆ヲ染メ文字ヲ余リ深ク案シ入給テ終ニ死シ給ヘハ消息ト申。又

云、消ハ陰也。息ハ陽也。憤リヲ筆ニテ書キ口ニテハ不云シ此文行テ万端ノ事ヲ息キ消ヘ休シテ物ヲ云如クト云。

披閱ハヒラキ見ルト読リ。

遼遠ハ遙ニ遠迄也。

惘然ハアキレハテタル体也。是ヨリ

種々ノ美物迄ハ上ノ如シ。

庁庭經營ハ政所則厨ノ事。



留守処<sup>ハ</sup>旧国ヲ云也。

大介八国ノスケ也。

税所八年貢ナト請取所。(朱合点は「所」の肩より懸けてあるものの今私に「留記」より改行)

留記ハ久敷文ヲ云也。

覆<sup>マ</sup>堪ハ状ヲクツカヘシ見ル事。又云、沙汰ノ破<sup>ル</sup>ヲ取成義ト云。

45ウ

郡司八郡ヲ掬<sup>ウ</sup>人。

権守ハ沙汰人。

小目代、本目代ノ内ニ有者。

国無<sup>ヒ</sup>(見せ消ち) 宰八国ノ割<sup>ケ</sup>別<sup>ル</sup>ヲ知者也。

下司ハ庄ノ司。

徴使ハ渡リ使ト読リ。

交分ハ宛文。年貢八百ナレハ八十ソヒ、八斗ナレハ八升(舛)ソフ。シカト引付有。

給分ハ本ヨリ持地也。

名主八百姓ノ頭<sup>ヲ</sup>。

返抄八年貢納<sup>テ</sup>住<sup>ト</sup>云時地頭ヨリ請取<sup>ヲ</sup>取。又百姓ヨリモ如何程収<sup>ト</sup>云状ヲ進<sup>ヒ</sup>(見せ消ち) 參セ上ルヲ云  
尔也。

貢絹八内裏<sup>ハ</sup>奉<sup>ル</sup>。准絹准布<sup>ハ</sup>御服<sup>ノ</sup>外<sup>ニ</sup>參絹也。

祖穀<sup>(マ)</sup>祖米<sup>(マ)</sup>ハ古<sup>ノ</sup>飯米ヲ收<sup>ル</sup>事。直進

請文ハ内義<sup>ニ</sup>テ直<sup>ニ</sup>捧<sup>ル</sup>者<sup>ノ</sup>コフ文也。

卒法ハ引付<sup>ノ</sup>事也。

別納直進ハ本代官<sup>ヲ</sup>閣<sup>テ</sup>別人<sup>ニ</sup>課役サセテ納ルハ君<sup>ノ</sup>御為<sup>ニ</sup>ハ別<sup>ニ</sup>納<sup>ル</sup>。百姓<sup>ノ</sup>為<sup>ニ</sup>ハ直進也。

徵納ハ催促セラレテ納ル也。

濟期ハ皆納<sup>メ</sup>限<sup>メ</sup>期也。

色代トハ布ナント<sup>ヲ</sup>錢方<sup>ニ</sup>収<sup>ル</sup>也。來納過上ハ納<sup>メ</sup>過<sup>シ</sup>タル義。明年<sup>ノ</sup>迄取意。

検田ハ田ヲエラフ。損亡ヲモ勘定而可取也。

散失ハ不可違ト思<sup>ヘ</sup>トモ算用<sup>ノ</sup>違事也。

都合ヨリ

莫大迄ハ文<sup>ノ</sup>如シ。

無難濟トハ

46才

年貢<sup>ナ</sup>ト<sup>ス</sup>ノ事スナヲ成様<sup>ニ</sup>ト也。保ト云ハ郷<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>保也。

巨多トハヲ、<sup>ト</sup>中<sup>ノ</sup>也。

雅意トハ世俗<sup>ニ</sup>申意ハ

狼藉ヲ云様意得候。只今、義八心、儘ナルヘシト也。  
庭訓私記以上

江州弥高寺悉地院此本有ト云。

右此本天正十年仲春写置申候。悪筆至極之条後覽之嘲御恥ケ敷候へ共、子之曰、以壺之弊不捐其  
金、以書之拙不廢其儀ト云。任先言如此候。

持主関東相模国三浦之住人盛教坊

(長形朱印 「天理図書館蔵」)

(完)

付記

翻刻に当たり鈴木元氏(熊本県立大学教授)より御助言をいただきました。心より感謝申し上げます。